

# 3 章 単純集計結果

- 領域 A 児童生徒のふだんのようすに関する事
- 領域 B 児童生徒と家族との対話に関する事
- 領域 C 児童生徒と教員とのやりとりに関する事
- 領域 D 児童生徒同士のやりとりに関する事
- 領域 E 学校や家庭での話し合いに関する事

3章には単純集計のグラフを示した。実数については5章に掲載した。

領域 A～Dは、すべての質問について、4つの選択肢「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」で回答を求めた。

「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を併せて「はい」、「どちらかというにあてはまらない」と「あてはまらない」を併せて「いいえ」と表記した。

グラフ中の割合は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

## 領域A 児童生徒のふだんの様子に関すること

「児童生徒のふだんの様子に関すること」の質問は、次の表に示す通りである。対象学年により言葉が若干異なるが、児童生徒に対する質問は中学1年のもの、教員に対する質問は中学校のものをそれぞれ示す。

対象	質問項目
児童生徒	私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
	私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
	私は、学級で、イライラしてがまんできないときがある。
	私は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。
	私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。
	私は、夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなる時がある。
	私は、友達の良いところを褒めながら話を聞いている。
	私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
	私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
	私は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。
	私は、友達と意見が合わないことがあると、その人と、あまり話したくなくなる。
	私は、みんなで決めたり約束を、守ろうとしている。
教員	私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。
	私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、学級の友達に話す。
	私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、同じ学級以外の友達に話す。
	生徒は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
	生徒は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
	授業中、イライラしていて自分を抑えられない生徒がいて気になる。
	生徒は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張している。
	生徒は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。
	夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなる生徒がいて気になる。
	生徒は、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。
	生徒は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。
	生徒は、教科の学習以外で、友達の発言を真剣に聞いている。
保護者	生徒は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。
	生徒は、友達と意見が合わないことがあると、その人とあまり話したくなくなる。
	生徒は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。
	みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする生徒がいる。
	生徒は、学校のことで困ったり悩んだりしたとき、友達に話す。
	子どもは、自分の考えをはっきり言える。
	子どもは、イライラして、自分を抑えられない。
	子どもは、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。
	子どもは、大切だと思うことは、自分で考えて決めようとしている。
	子どもは、夢中になると、まわりの人の意見を聞かなくなる。
	子どもは、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。
	子どもは、先生や友達に、話をよく聞いてもらっている。
子どもは、友達のことをしっかりと聞いている。	
子どもは、友達と意見が合わないことがあると、その人とあまり話したくなくなる。	
子どもは、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。	
子どもは、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。	

領域Aは、すべての質問について、4つの選択肢「あてはまる」「どちらかという」と「あてはまる」「どちらかという」と「あてはまらない」「あてはまらない」で回答を求めた。「あてはまる」と「どちらかという」と「あてはまる」を併せて「はい」、「どちらかという」と「あてはまらない」と「あてはまらない」を併せて「いいえ」と表記した。

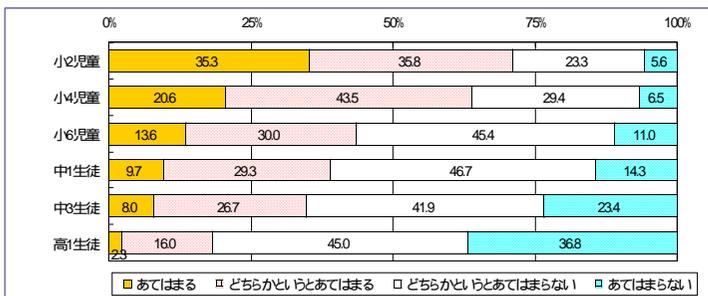
小2には「教科の学習」と「教科の学習以外」を区別した質問は省いた。質問項目の表及びグラフは、比較する目安とするために、「教科の学習」と「教科の学習以外」の両方の表とグラフに、同じ質問とその結果を入れてある。

## 1 「自分の考えを進んで発言すること」に関する質問

教科の学習において、自分の考えを進んで発言しているかどうかを質問した。保護者は異なる質問であるが、比較のためにここに示す。

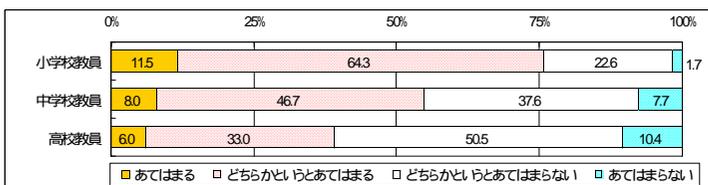
回答者	項目
小2年生	A わたしは、がっきゅうで、じぶんのかんがえをすすんで、はなしている。
小4・6年生	A わたしは、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
中1・3年生	A 私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
高1年生	A 私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。

グラフ 1-1



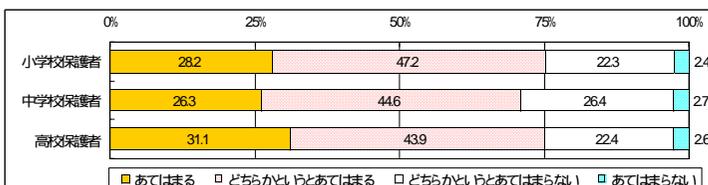
回答者	項目
小学校教員	A 児童は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
中学校教員	A 生徒は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。
高等学校教員	A 生徒は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。

グラフ 1-2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、自分の考えをはっきり言える。

グラフ 1-3



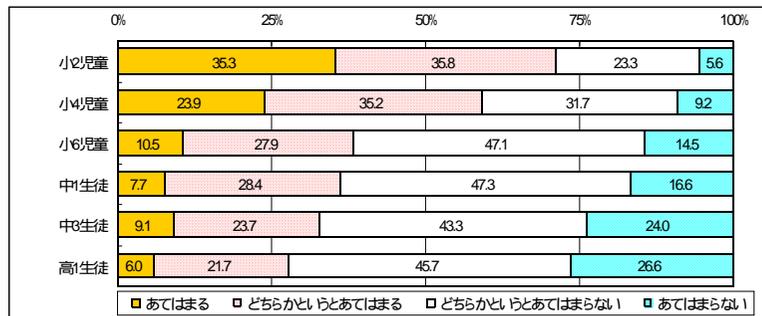
児童生徒が「あてはまる」あるいは「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。

児童生徒が「いいえ」と回答した割合は、教員の回答の割合を上回る。

次に、教科の学習以外の学級での話し合いについて、同様の質問をした結果を示す。

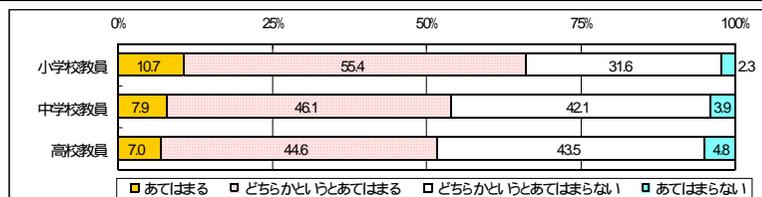
回答者	項目	
小2児童	A	わたしは、がっきゅうで、じぶんのかんがえをすすんで、はなしている。
小4・6児童	A	わたしは、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
中1・3生徒	A	私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
高1生徒	A	私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。

グラフ  
1-4



回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
中学校教員	A	生徒は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。
高等学校教員	A	生徒は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。

グラフ  
1-5



児童生徒が「あてはまる」あるいは「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。

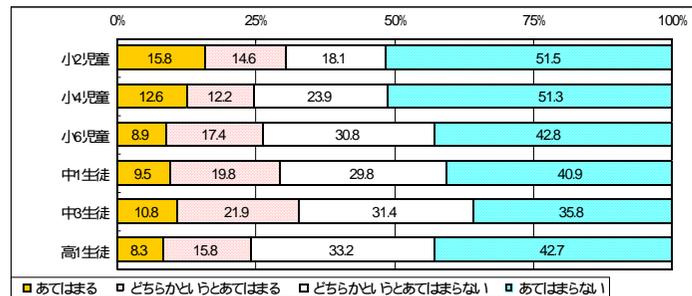
教科の学習と教科以外の学習を比較すると、教科の学習については、児童生徒が「はい」と回答した割合は、小4と小6の間、中3と高1の間で変化の差が大きいのに対し、教科の学習以外では、小4と小6の間で差が大きいですが、中3と高1の間の差は小さい。

## 2 「学級でイライラすること」に関する質問

学級でイライラしてがまんできないことがあるかどうか質問した。教員、保護者は若干異なる質問であるが、比較のためにここに示す。

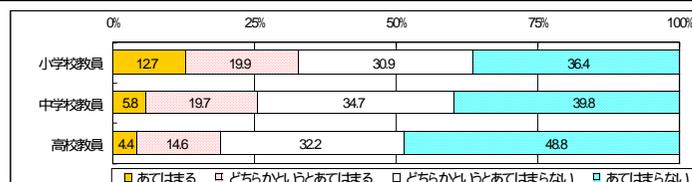
回答者	項目	
小2児童	A	わたしは、きょうしつで、いらいらして、がまんできないことがある。
小4・6児童	A	わたしは、学級で、イライラしてがまんできないときがある。
中1・3生徒	A	私は、学級で、イライラしてがまんできないときがある。
高1生徒	A	私は、学級で、イライラしてがまんできないときがある。

グラフ  
2-1



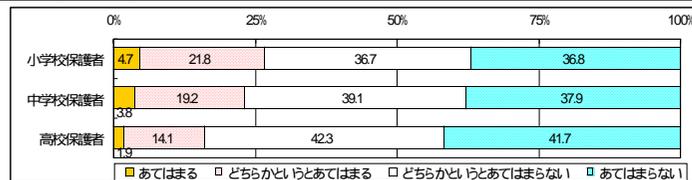
回答者	項目	
小学校教員	A	授業中、イライラして自分を抑えられない児童がいて気になる。
中学校教員	A	授業中、イライラして自分を抑えられない生徒がいて気になる。
高等学校教員	A	授業中、イライラして自分を抑えられない生徒がいて気になる。

グラフ  
2-2



回答者	項目	
保護者	A	子どもは、イライラして、自分を抑えられない。

グラフ  
2-3



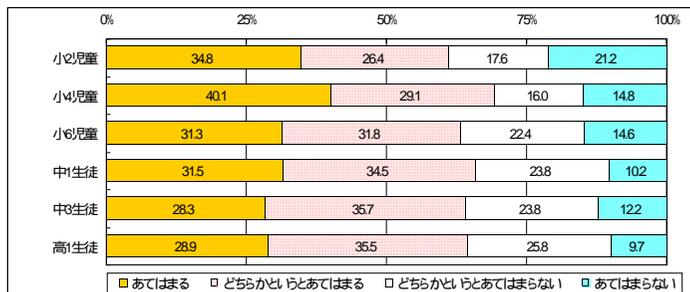
児童生徒は、小4から中3で「はい」の割合が若干ではあるが増加し、高1で減少する。教員と保護者は、学年が上がるにつれて、「はい」の割合が減少する。

### 3 「発表で緊張すること」に関する質問

みんなの前に出て発表するときとても緊張するかどうか質問した。小2は若干異なる質問であるが、比較のためにここに示す。

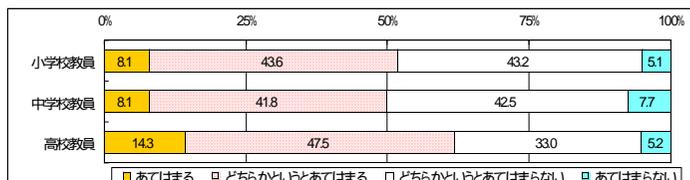
回答者	項目
小2児童	A わたしは、みんなのまえではなすとき、とてもドキドキする。
小4・6児童	A わたしは、みんなの前に出て発表するとき、とてもきんちようする。
中1・3生徒	A 私は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。
高1生徒	A 私は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。

グラフ  
3-1



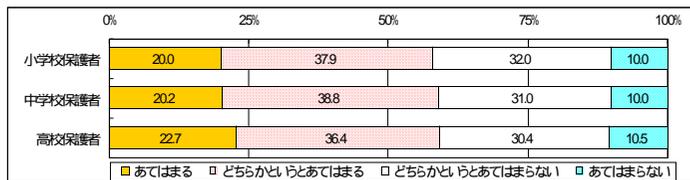
回答者	項目
小学校教員	A 児童は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張している。
中学校教員	A 生徒は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張している。
高等学校教員	A 生徒は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張している。

グラフ  
3-2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。

グラフ  
3-3



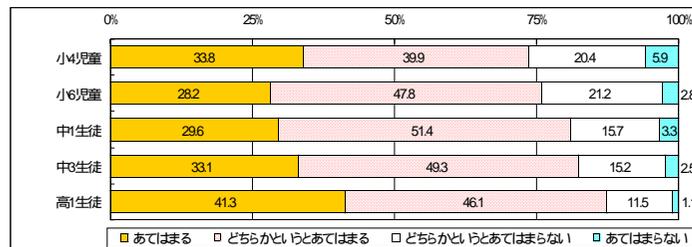
児童生徒と保護者は、学年が上がってもあまり変化しない。教員は高校で少し高くなる。

### 4 「自分で決めようとする」に関する質問

大切だと思うことを、自分で決めようとしているかどうか質問した。小2には質問していない。

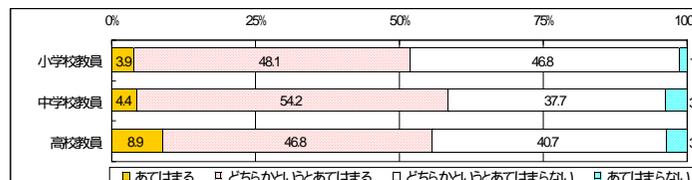
回答者	項目
小4・6児童	A 私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。
中1・3生徒	A 私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。
高1生徒	A 生徒は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。

グラフ  
4-1



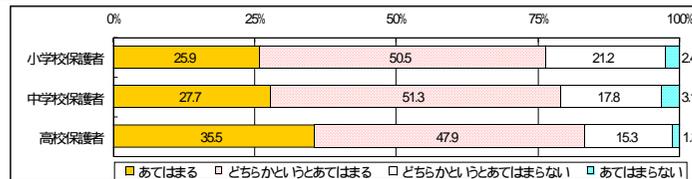
回答者	項目
小学校教員	A 児童は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。
中学校教員	A 生徒は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。
高等学校教員	A 生徒は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。

グラフ  
4-2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、大切だと思うことは、自分で考えて決めようとしている。

グラフ  
4-3



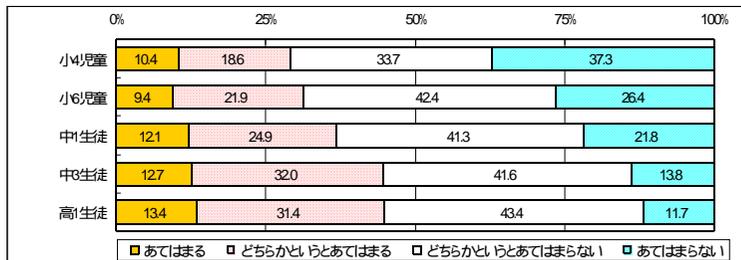
児童生徒と保護者は、学年が上がると「はい」と回答する割合が増加する。教員は学年が上がってもあまり変化しない。  
児童生徒と教員を比較すると、「あてはまる」と回答した割合は、児童生徒が教員を大きく上回る。

5 「周りの意見を聞かなくなること」に関する質問

夢中になると周りの人の意見を聞かなくなるかどうか質問した。小2には質問していない。

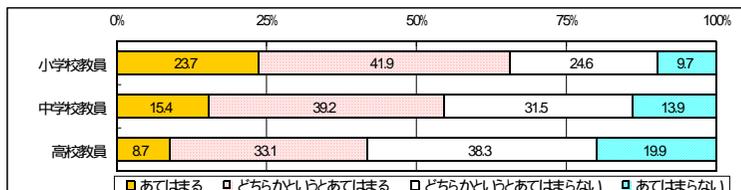
回答者	項目	
小4・6児童	A	わたしは、むちゅうになると、まわりの人の意見を聞かなくなるがある。
中1・3生徒	A	私は、夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなるがある。
高1生徒	A	私は、夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなるがある。

グラフ 5-1



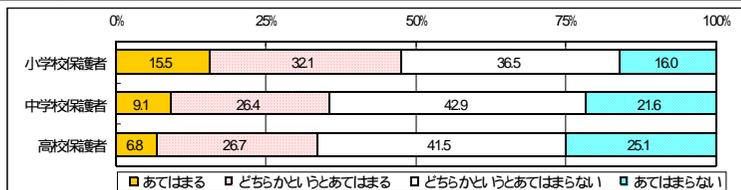
回答者	項目	
小学校教員	A	夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなる児童がいて気になる。
中学校教員	A	夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなる生徒がいて気になる。
高等学校教員	A	夢中になると、周りの人の意見を聞かなくなる生徒がいて気になる。

グラフ 5-2



回答者	項目	
保護者	A	子どもは、夢中になると、まわりの人の意見を聞かなくなる。

グラフ 5-3



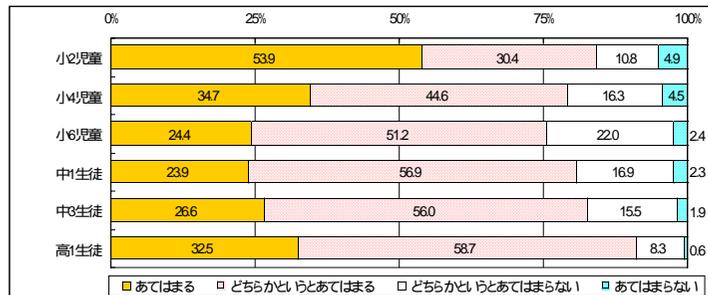
児童生徒は、小6から中3まで「はい」と回答する割合が増加する。  
教員と保護者は、学年が上がるにつれ「はい」と回答する割合は減少する。

6 「気持ちを聞くこと」に関する質問

友達の気持ちを考えながら話を聞いているかどうかについて質問した。

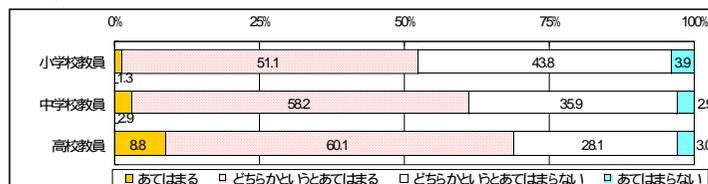
回答者	項目	
小2児童	A	わたしは、ともだちの気持ちをかんがえながら、はなしをきいている。
小4・6児童	A	わたしは、友だちの気持ちを考えながら話を聞いている。
中1・3生徒	A	私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。
高1生徒	A	私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。

グラフ 6-1



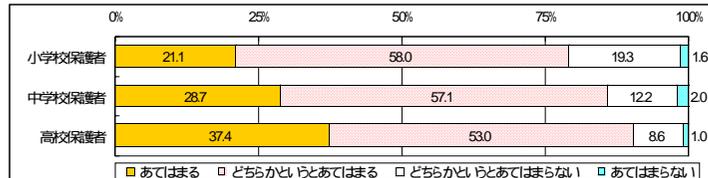
回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。
中学校教員	A	生徒は、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。
高等学校教員	A	生徒は、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。

グラフ 6-2



回答者	項目	
保護者	A	子どもは、友達と話すとき、相手の気持ちを考えながら話を聞いている。

グラフ 6-3



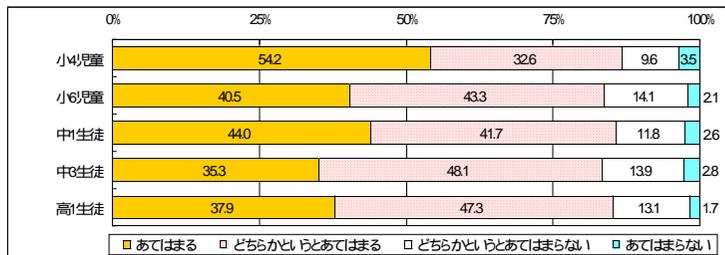
児童生徒は、小2から小6まで「はい」と回答する割合が増加するが、中1以降は増加する。教員と保護者は、児童生徒と同様な傾向で回答している。  
教員が「あてはまる」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を大きく下回る。

7 「発言を聞くこと」に関する質問

教科の学習で友達の発言を聞くことは自分のためになると思うかどうか質問した。教員、保護者は異なる質問であるが、比較のためにここに示す。小2には質問していない。

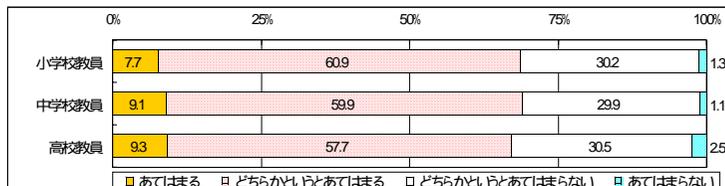
回答者	項目	
小4・6児童	A	わたしは、教科の学習で、友だちの発言を聞くことは、自分のためになると思う。
中1・3生徒	A	私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
高1生徒	A	私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。

グラフ 7-1



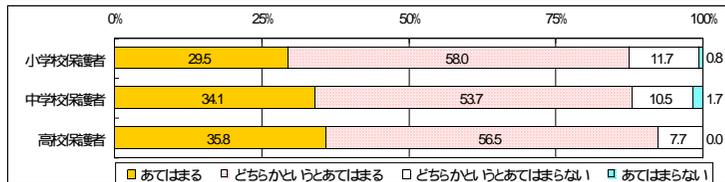
回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。
中学校教員	A	生徒は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。
高等学校教員	A	生徒は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。

グラフ 7-2



回答者	項目	
保護者	A	子どもは、友達の言うことをしっかりと聞いている。

グラフ 7-3



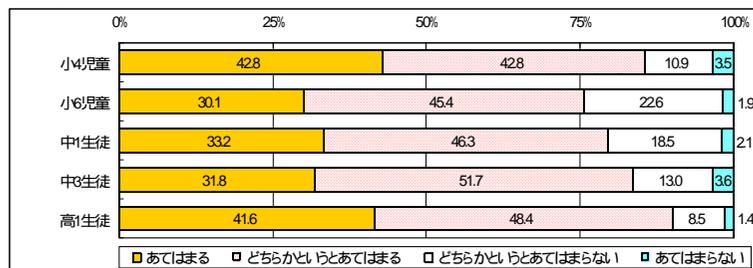
児童生徒は、学年が上がっても「はい」と回答した割合があまり変化しない。教員と保護者も児童生徒同様である。

教員が「あてはまる」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を大きく下回る。

次に、教科の学習以外で友達の発言を聞くことは自分のためになると思うかどうか質問した。

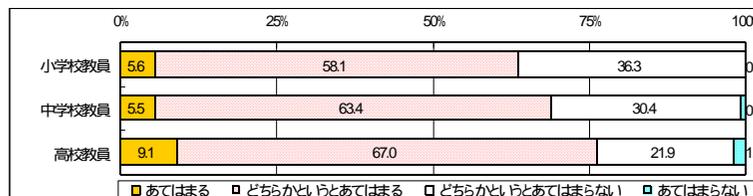
回答者	項目	
小4・6児童	A	わたしは、教科の学習以外で、友だちの発言を聞くことは、自分のためになると思う。
中1・3生徒	A	私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。
高1生徒	A	私は、教科の学習以外で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。

グラフ 7-4



回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、教科の学習以外で、友達の発言を真剣に聞いている。
中学校教員	A	生徒は、教科の学習以外で、友達の発言を真剣に聞いている。
高等学校教員	A	生徒は、教科の学習以外で、友達の発言を真剣に聞いている。

グラフ 7-5



児童生徒は、小6で「はい」と回答する割合が減少するが、中1以降は増加する。教員が「あてはまる」と回答した割合は、児童生徒を大きく下回る。

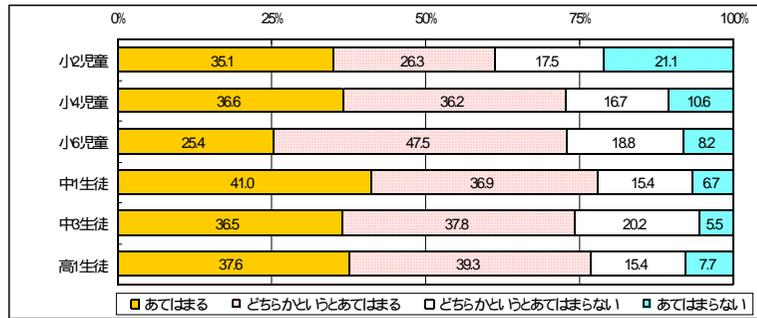
教科の学習と教科の学習以外を比較すると、教科の学習では、「はい」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がってもあまり変化しないが、教科の学習以外では、小6で減少し中1から増加する。

8 「学習で友達と教え合うこと」に関する質問

教科の学習で分からないことを友達と教え合っているかどうか質問した。小2は若干異なる質問であるが、比較のためにここに示す。保護者には質問していない。

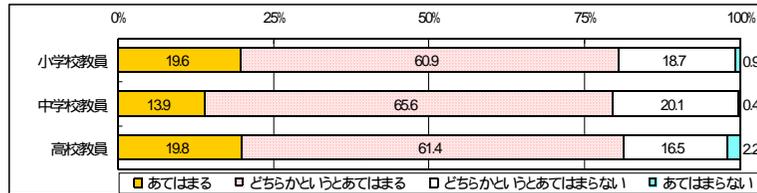
回答者	項目	
小2児童	A	わたしは、じゅぎょうでは、ともだちとおしえて、べんきょうしている。
小4・6児童	A	わたしは、教科の学習で、わからないことを友だちと教え合っている。
中1・3生徒	A	私は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。
高1生徒	A	私は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。

グラフ 8-1



回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。
中学校教員	A	生徒は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。
高等学校教員	A	生徒は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。

グラフ 8-2



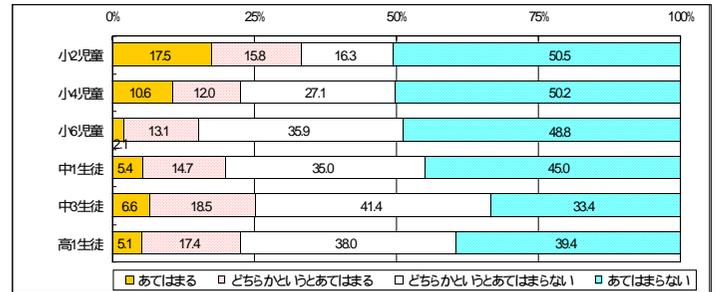
児童生徒は、学年が上っても「はい」と回答した割合はあまり変化しない。教員が「あてはまる」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を大きく下回る。教員が「あてはまらない」と回答した割合は、児童生徒が回答した割合を大きく下回る。

9 「友達と意見が合わないときの対話」に関する質問

友達意見が合わないことがあるとその人とあまり話をしたくなくなるかどうか、質問した。

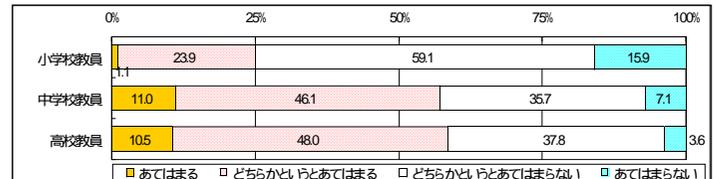
回答者	項目	
小2児童	A	わたしは、ともだちといけんがあわなことがあると、その人と、あまりはなしたくなくなる。
小4・6児童	A	わたしは、友だちと意見があわなことがあると、その人と、あまり話したくなくなる。
中1・3生徒	A	私は、友達と意見があわなことがあると、その人と、あまり話したくなくなる。
高1生徒	A	私は、友達と意見があわなことがあると、その人と、あまり話したくなくなる。

グラフ 9-1



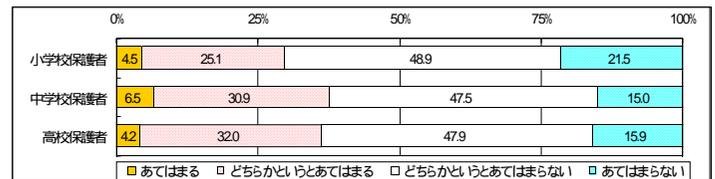
回答者	項目	
小学校教員	A	児童は、友達と意見があわなことがあると、その人とあまり話をしなくなる。
中学校教員	A	生徒は、友達と意見があわなことがあると、その人とあまり話をしなくなる。
高等学校教員	A	生徒は、友達と意見があわなことがあると、その人とあまり話をしなくなる。

グラフ 9-2



回答者	項目	
保護者	A	子どもは、友達と意見があわなことがあると、その人とあまり話をしなくなる。

グラフ 9-3



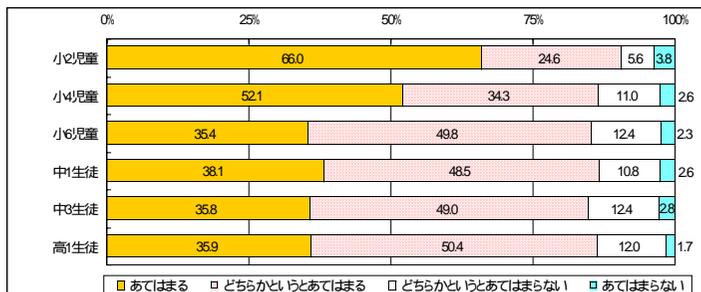
児童生徒が「はい」と回答した割合は、小6まで少なくなり、中学で増加し、高校で減少する。教員は、小学校で「はい」と回答した割合が低く、中学校、高校で高くなる。中学校、高校の教員が「はい」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を大きく上回る。

10 「きまりや約束を守ろうとすること」に関する質問

みんなで決めたきまりや約束を守ろうとしているかどうか質問した。

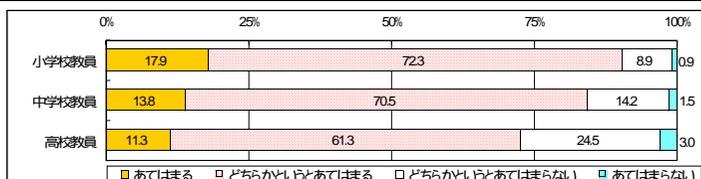
回答者	項目
小2児童	A わたしは、きまりや やくそくを、まもろうとしている。
小4・6児童	A わたしは、みんなで決めたきまりややくそくを、守ろうとしている。
中1・3生徒	A 私は、みんなで決めたきまりや約束を、守ろうとしている。
高1生徒	A 私は、みんなで決めたきまりや約束を、守ろうとしている。

グラフ 10 - 1



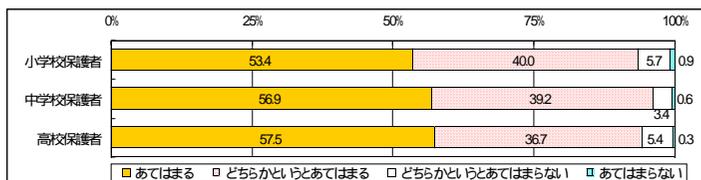
回答者	項目
小学校教員	A 児童は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。
中学校教員	A 生徒は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。
高等学校教員	A 生徒は、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。

グラフ 10 - 2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、みんなで決めた決まりや約束を、守ろうとしている。

グラフ 10 - 3



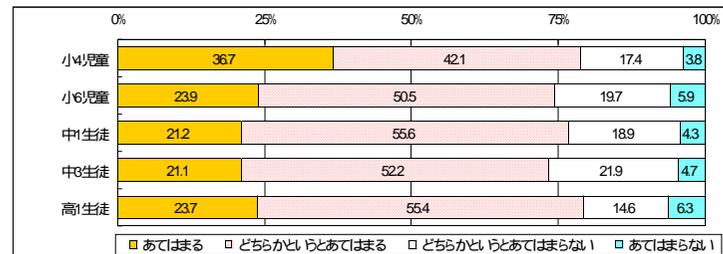
児童生徒は、小4から小6まで「あてはまる」と回答する割合が減少するが、中1以降は変化しない。  
 教員は、「あてはまる」と回答する割合が児童生徒の回答の割合を大きく下回るが、保護者は児童生徒を上回る。

11 「みんなが困っているとき解決しようとする」とに関する質問

みんなが困っていることに解決しようとするかどうか質問した。小2には質問していない。

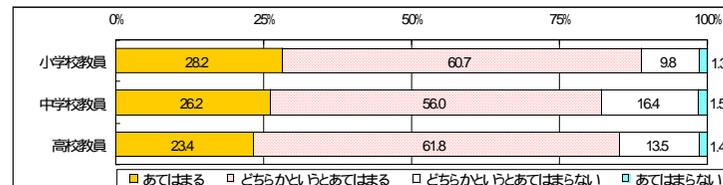
回答者	項目
小4・6児童	A わたしは、みんながこまっているとき、なんとかかいつつしようとしている。
中1・3生徒	A 私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。
高1生徒	A 私は、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。

グラフ 11 - 1



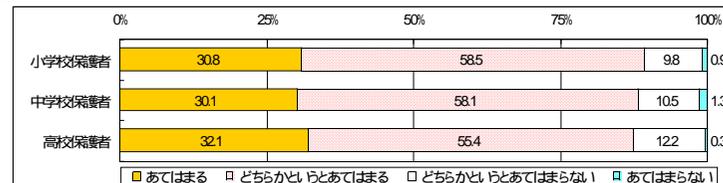
回答者	項目
小学校教員	A みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする児童がいる。
中学校教員	A みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする生徒がいる。
高等学校教員	A みんなが困っているとき、なんとか解決しようとする生徒がいる。

グラフ 11 - 2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、みんなが困っているとき、なんとか解決しようとしている。

グラフ 11 - 3



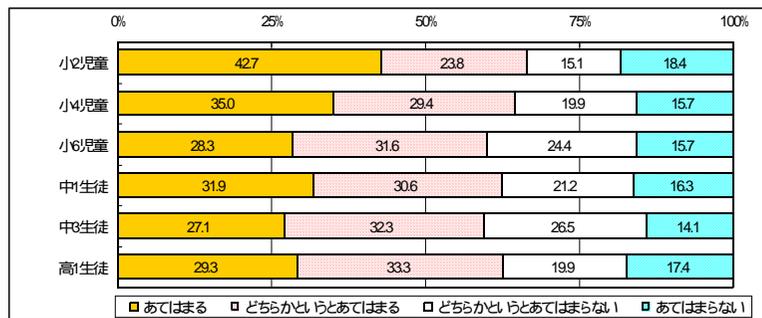
児童生徒は、小4から小6まで「あてはまる」と回答する割合が減少するが、小6以降は変化しない。「はい」と回答する割合は変化しない。  
 教員、保護者も同様の回答をしている。

12 「困ったとき友だちに話すこと」に関する質問

困ったり悩んだりしたときに学級の友だちに話すかどうか質問した。

回答者	項目
小2児童	A わたしは、こまったりなやんだりしたときに、ともだちにはなす。
小4・6児童	A わたしは、学校のことでこまったり、なやんだりしたとき、学級の友だちに話す。
中1・3生徒	A 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、学級の友達に話す。
高1生徒	A 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、学級の友達に話す。

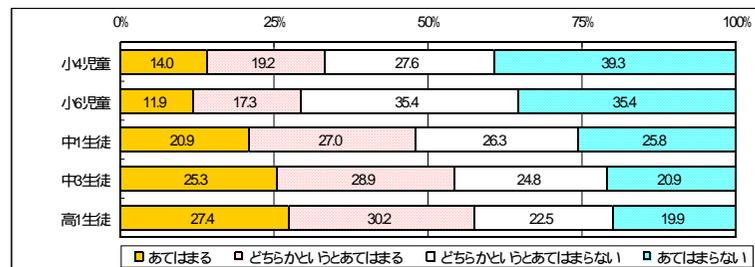
グラフ  
12 - 1



次に、困ったり悩んだりしたとき、同じ学級以外の友達に話すかどうか質問した。

回答者	項目
小4・6児童	A わたしは、学校のことでこまったり、なやんだとき、同じ学級以外の友だちに話す。
中1・3生徒	A 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、同じ学級以外の友達に話す。
高1生徒	A 私は、学校のことで困ったり、悩んだりしたとき、同じ学級以外の友達に話す。

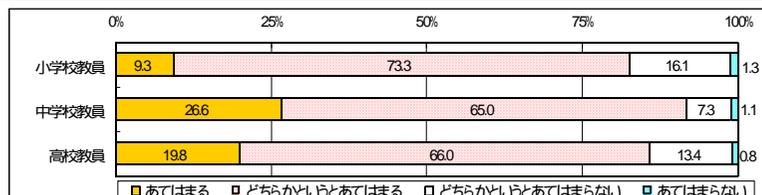
グラフ  
12 - 3



児童生徒が、「はい」と回答した割合は、中1で急に増加し、以降増えていく。

回答者	項目
小学校教員	A 児童は、学校のことで困ったり悩んだりしたとき、友達に話す。
中学校教員	A 生徒は、学校のことで困ったり悩んだりしたとき、友達に話す。
高等学校教員	A 生徒は、学校のことで困ったり悩んだりしたとき、友達に話す。

グラフ  
12 - 2



児童生徒が、「はい」と回答した割合は、学年が上ってもあまり変化しない。  
 教員が、「はい」と回答した割合は、児童生徒より大きく上回る。また、教員が「あてはまらない」と回答した割合は、児童生徒を大きく下回る。

## 領域B 児童生徒と家族との対話に関すること

「児童生徒と家族との対話に関すること」の質問は、次の表に示すとおりである。対象学年により言葉が若干異なるが、児童生徒に対する質問は中学1年のもの、教員に対する質問は中学校のものをそれぞれ示す。

対象	質問項目
児童生徒	私は、その日の学校でのできごとについて家の人に話す。
	私がその日の学校でのできごとについて話すと、家の人にはよく聞いてくれる。
	私は、学校からの連絡やプリントがあると、その内容について家の人に話す。
	私が学校や家庭でがんばっていることを、家の人にはほめてくれる。
	私は、決まりや約束について、家の人と話し合う。
教員	私は、困ったり悩んだりしたとき、そのことを家の人に話す。
	私は、その日の学校でのできごとを、家庭で話題にするように、生徒に働きかけている。
	私は、その日の学校でのできごとを、家庭で話題にするように、保護者に働きかけている。
	私は、学校からの連絡やプリントについて、家庭で話題にするように、生徒に働きかけをしている。
	私は、生徒ががんばっていることをほめてもらえるよう、家庭に働きかけている。
保護者	私は、決まりや約束について、チャンスをとらえて家庭で話題にするよう、生徒や保護者に働きかけている。
	私は、生徒が困ったり悩んだりしたときに、家庭で相談できるように、保護者に働きかけている。
	その日の学校でのできごとを話すように、子どもに言っている。
	学校からの連絡帳やプリントをわたされたとき、子どもに内容を説明してもらおうようにしている。
	子どもが学校や家庭でがんばっているときには、ほめるようにしている。
決まりや約束について、チャンスをとらえて話し合うようにしている。	
子どもが困ったり悩んだりしている様子が見られ、気になるときには、こちらから一声かけるようにしている。	
領域Eへ	

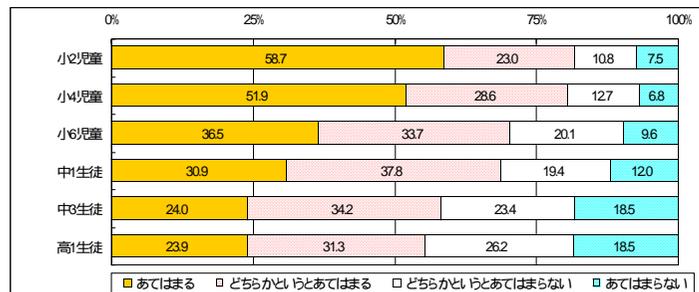
領域Bは、すべての質問について、4つの選択肢「あてはまる」「どちらかという」と「あてはまる」「どちらかという」と「あてはまらない」「あてはまらない」で回答を求めた。「あてはまる」と「どちらかという」と「あてはまる」を併せて「はい」、「どちらかという」と「あてはまらない」と「あてはまらない」を併せて「いいえ」と表記した。

### 1 「学校でのできごとを家庭で話すこと」に関する質問

その日の学校でのできごとを家の人に話すかどうか質問した。教員と保護者には、そのことを働きかけているかどうか質問した。

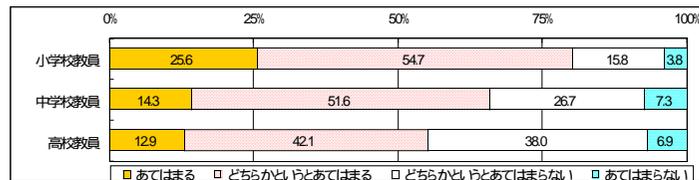
回答者	項目
小2児童	B わたしは、学校でのできごとを、いえの人には話す。
小4・6児童	B わたしは、その日の学校でのできごとについて家の人に話す。
中1・3生徒	B 私は、その日の学校でのできごとについて家の人に話す。
高1生徒	B 私は、その日の学校でのできごとについて家の人に話す。

グラフ 13-1



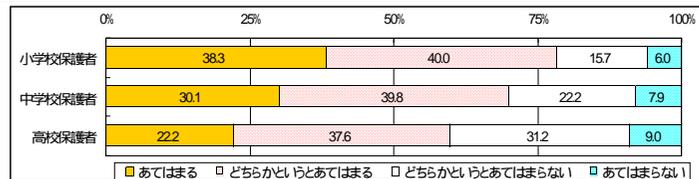
回答者	項目
小学校教員	B 私は、その日の学校でのできごとを、家庭で話題にするように、児童に働きかけている。
中学校教員	B 私は、その日の学校でのできごとを、家庭で話題にするように、生徒に働きかけている。
高等学校教員	B 私は、その日の学校でのできごとを、家庭で話題にするように、生徒に働きかけている。

グラフ 13-2



回答者	項目
保護者	B その日の学校でのできごとを話すように、子どもに言っている。

グラフ 13-3



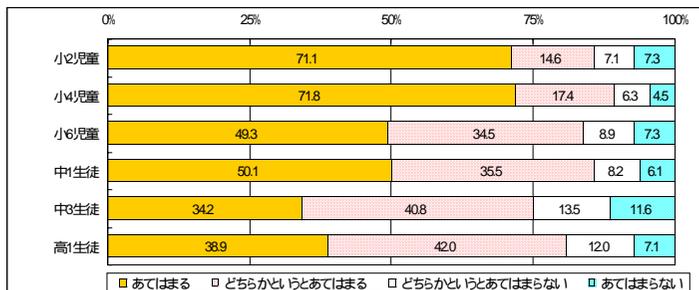
児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。教員、保護者も同様の回答をしている。

2 「学校での話を家庭でよく聞いてもらえること」に関する質問

学校のでできごとを家の人はよく聞いてくれるかどうか質問した。教員には保護者への働きかけ、保護者には真剣に聞いているかどうか質問した。

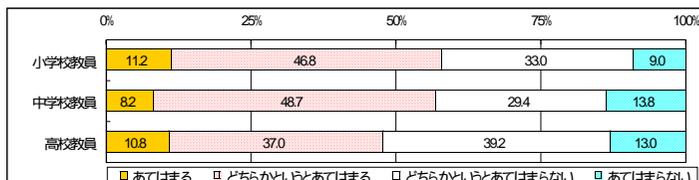
回答者	項目
小2児童	B 学校のでできごとについて、わたしがはなすと、いえの人は、よくきいてくれる。
小4・6児童	B わたしが その日の学校のでできごとについて話すと、家の人はよく聞いてくれる。
中1・3生徒	B 私がその日の学校のでできごとについて話すと、家の人はよく聞いてくれる。
高1生徒	B 私がその日の学校のでできごとについて話すと、家の人はよく聞いてくれる。

グラフ 14-1



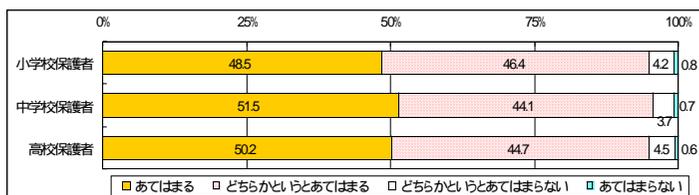
回答者	項目
小学校教員	B 私は、その日の学校のでできごとを、家庭で話題にするように、保護者に働きかけている。
中学校教員	B 私は、その日の学校のでできごとを、家庭で話題にするように、保護者に働きかけている。
高等学校教員	B 私は、その日の学校のでできごとを、家庭で話題にするように、保護者に働きかけている。

グラフ 14-2



回答者	項目
保護者	B その日の学校のでできごとについて子どもが話すことを、真剣に関心を持っている。

グラフ 14-3



児童生徒が「はい」と回答した割合は、どの学年も7割から9割を占める。児童生徒が「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6および中1と中3の間に大きな差がみられる。

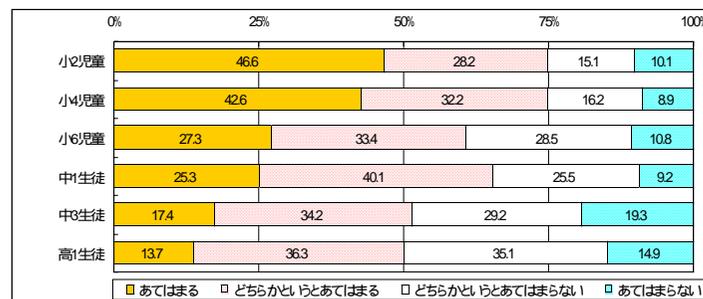
保護者が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

3 「学校からのプリントについて家の人に話すこと」に関する質問

学校からの連絡やプリントについて家の人に話すかどうか質問した。教員と保護者には児童生徒への働きかけについて質問した。

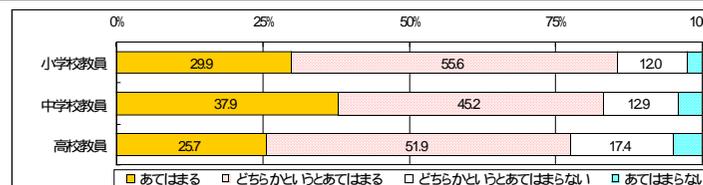
回答者	項目
小2児童	B わたしは、いえの人に、れんらくちょうやプリントをわたして、そのことをはなしている。
小4・6児童	B わたしは、学校からのれんらくやプリントがあると、その内容について家の人に話す。
中1・3生徒	B 私は、学校からの連絡やプリントがあると、その内容について家の人に話す。
高1生徒	B 私は、学校からの連絡やプリントがあると、その内容について家の人に話す。

グラフ 15-1



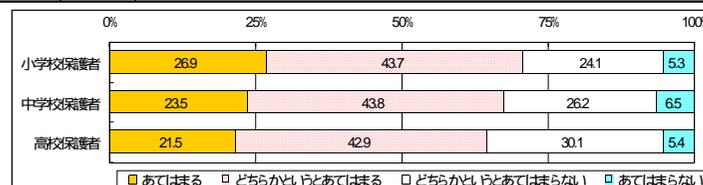
回答者	項目
小学校教員	B 私は、学校からの連絡やプリントについて、家庭で話題にするように、児童に働きかけをしている。
中学校教員	B 私は、学校からの連絡やプリントについて、家庭で話題にするように、生徒に働きかけをしている。
高等学校教員	B 私は、学校からの連絡やプリントについて、家庭で話題にするように、生徒に働きかけをしている。

グラフ 15-2



回答者	項目
保護者	B 学校からの連絡帳やプリントをわたされたとき、子どもに内容を説明してもらおうようにしている。

グラフ 15-3



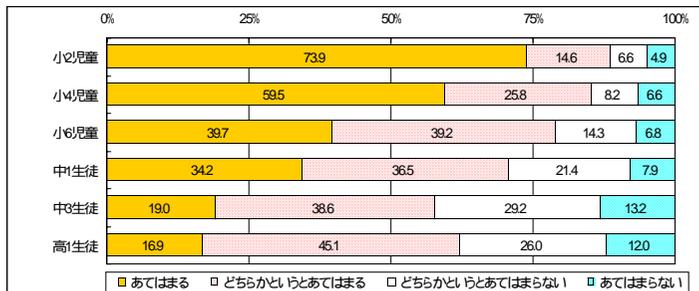
児童生徒が「はい」と回答した割合は、小4と小6および中1と中3の間に大きな差を示しながら、学年が上がるにつれて段階的に減少する。

4 「がんばりを家の人がほめてくれること」に関する質問

学校や家でがんばったことを、家の人はほめてくれるかどうか質問した。教員には家庭への働きかけ、保護者にはほめているかどうか質問した。

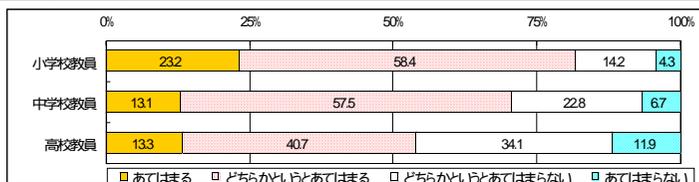
回答者	項目
小2児童	B わたしががんばったことを、いえの人は、ほめてくれる。
小4・6児童	B わたしが学校や家でがんばっていることを、家の人はほめてくれる。
中1・3生徒	B 私が学校や家庭でがんばっていることを、家の人はほめてくれる。
高1生徒	B 私が学校や家庭でがんばっていることを、家の人はほめてくれる。

グラフ 16-1



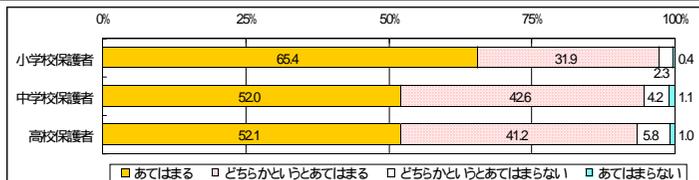
回答者	項目
小学校教員	B 私は、児童ががんばっていることをほめてもらえるよう、家庭に働きかけている。
中学校教員	B 私は、生徒ががんばっていることをほめてもらえるよう、家庭に働きかけている。
高等学校教員	B 私は、生徒ががんばっていることをほめてもらえるよう、家庭に働きかけている。

グラフ 16-2



回答者	項目
保護者	B 子どもが学校や家庭でがんばっているときには、ほめるようにしている。

グラフ 16-3



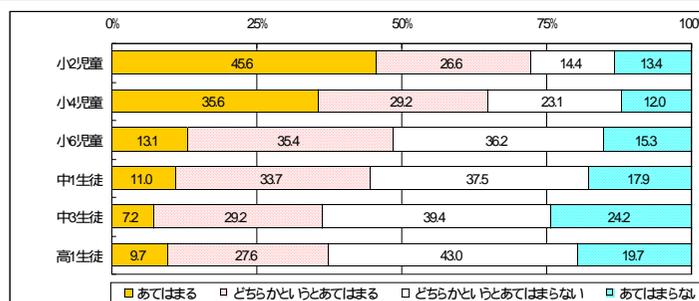
児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。  
児童生徒が「はい」および「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6および中1と中3の間に大きな差がみられる。  
保護者が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

5 「決まりや約束について家の人と話し合うこと」に関する質問

決まりや約束について家の人と話し合うかどうか質問した。教員には家庭への働きかけについて質問した。

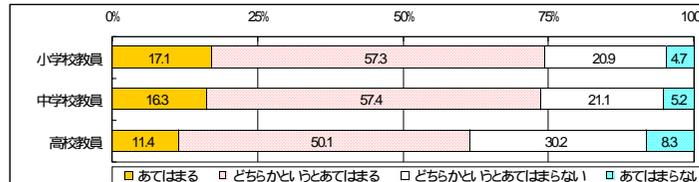
回答者	項目
小2児童	B わたしは、きまりややくそくについて、いえの人とはなす。
小4・6児童	B わたしは、決まりややくそくについて、家の人と話し合う。
中1・3生徒	B 私は、決まりや約束について、家の人と話し合う。
高1生徒	B 私は、決まりや約束について、家の人と話し合う。

グラフ 17-1



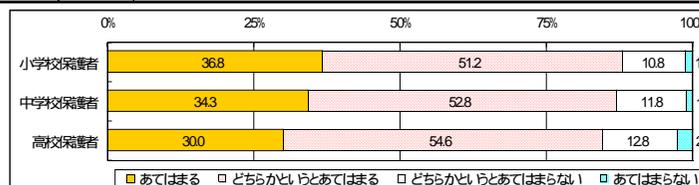
回答者	項目
小学校教員	B 私は、決まりや約束について、チャンスをとらえて家庭で話題にするよう、児童や保護者に働きかけている。
中学校教員	B 私は、決まりや約束について、チャンスをとらえて家庭で話題にするよう、生徒や保護者に働きかけている。
高等学校教員	B 私は、決まりや約束について、チャンスをとらえて家庭で話題にするよう、生徒や保護者に働きかけている。

グラフ 17-2



回答者	項目
保護者	B 決まりや約束について、チャンスをとらえて話し合うようにしている。

グラフ 17-3



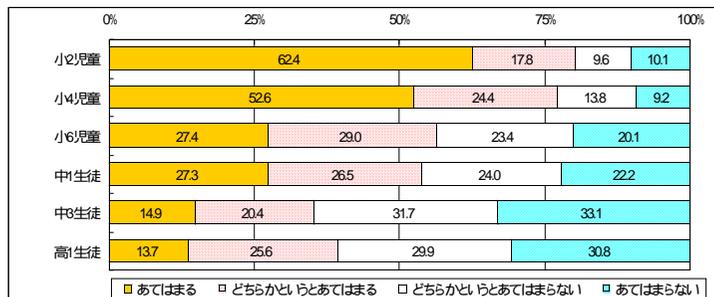
児童生徒が「はい」と回答した割合は、中3までは学年が上がるにつれて減少する。  
児童生徒が「あてはまる」あるいは「はい」と回答した割合は、小4と小6および中1と中3の間に大きな差がみられる。  
保護者が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

6 「困ったとき家の人に話すこと」に関する質問

困ったり悩んだとき家の人に話すかどうか質問した。教員には保護者への働きかけについて質問した。保護者には、気になるとき一声かけるかどうか質問した。

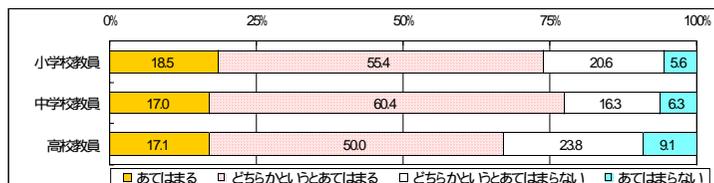
回答者	項目	
小2児童	B	わたしは、こまったことがあったら、いえの人に、はなす。
小4・6児童	B	わたしは、こまったり悩んだりしたとき、そのことを家の人に話す。
中1・3生徒	B	私は、困ったり悩んだりしたとき、そのことを家の人に話す。
高1生徒	B	私は、困ったり悩んだりしたとき、そのことを家の人に話す。

グラフ 18-1



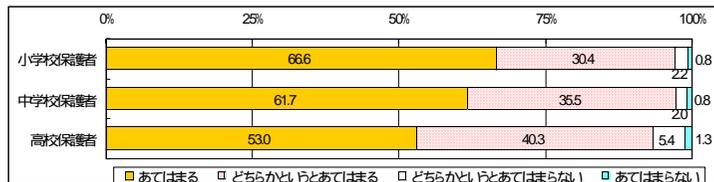
回答者	項目	
小学校教員	B	私は、児童が困ったり悩んだりしたときに、家庭で相談できるように、保護者に働きかけている。
中学校教員	B	私は、生徒が困ったり悩んだりしたときに、家庭で相談できるように、保護者に働きかけている。
高等学校教員	B	私は、生徒が困ったり悩んだりしたときに、家庭で相談できるように、保護者に働きかけている。

グラフ 18-2



回答者	項目	
保護者	B	子どもが困ったり悩んだりしている様子が現られ、気になるときには、こちらから一声かけるようにしている。

グラフ 18-3



児童生徒が「はい」と回答した割合は、中3までは学年が上がるにつれて減少するが、高1で増加する。児童生徒が「あてはまる」および「はい」と回答した割合は、小4と小6および中1と中3の間に大きな差がみられる。

保護者が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を大きく下回る。

領域C 児童生徒と教員とのやりとりに関すること

「児童生徒と教員とのやりとりに関すること」の質問は、次の表に示す通りである。対象学年により言葉が若干異なるが、児童生徒に対する質問は中学1年のもの、教員に対する質問は中学校のものをそれぞれ示す。

対象	質問項目
児童生徒	先生は、元気にあいさつしたり、声をかけてくれたりする。
	先生は、私の気持ちを考えて話を聞いてくれる。
	先生の朝の会や帰りの会の話は、よくわかる。
	先生は、清掃や給食などのときに、みんなと協力することの大切さを話してくれる。
	先生は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話してくれる。
	先生は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を多くつづけている。
教員	先生は、学級での話し合いで、みんながうまく協力できるように助けてくれる。
	先生は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように助けてくれる。
	私は、生徒に、元気にあいさつをしたり、声をかけたりしている。
	私は、生徒の気持ちを考えて話を聞くようにしている。
	私は、朝の会や帰りの会で、説明の内容や話し方を工夫している。
	私は、清掃や給食などのときに、みんなと協力することの大切さを話している。
教員	先生は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話している。
	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。
	先生は、学級での話し合いでは、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。
	私は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。
	先生は、教科の学習での話し合い活動は、内容の理解や生徒指導のために、とても大切なことだと考えている。
	私は、教科の学習での話し合い活動は、内容の理解や生徒指導のために、とても大切なことだと考えている。

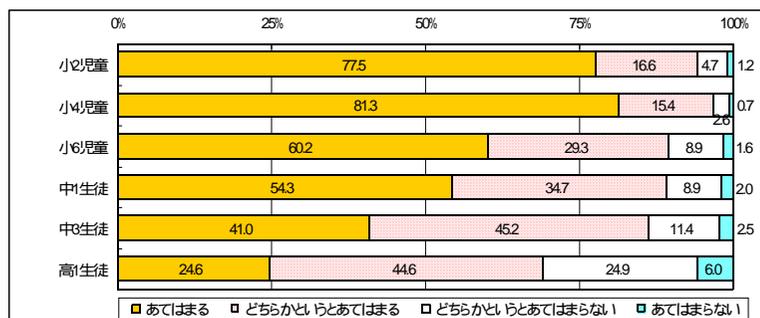
領域Cは、すべての質問について、4つの選択肢「あてはまる」「どちらかというあてはまる」「どちらかというあてはまらない」「あてはまらない」で回答を求めた。「あてはまる」と「どちらかというあてはまる」を併せて「はい」、「どちらかというあてはまらない」と「あてはまらない」を併せて「いいえ」と表記した。

1 「先生が声をかけてくれること」に関する質問

先生が挨拶してくれたり声をかけてくれたりするかどうか質問した。

回答者	項目	
小2児童	C	先生は、あいさつをしたり、こえをかけたりにして。くれる。
小4・6児童	C	先生は、元気にあいさつしたり、声をかけてくれたりする。
中1・3生徒	C	先生は、元気にあいさつしたり、声をかけてくれたりする。
高1生徒	C	先生は、元気にあいさつしたり、声をかけてくれたりする。

グラフ 19-1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、児童に、元気にあいさつをしたり、声をかけてたりしている。
中学校教員	C	私は、生徒に、元気にあいさつをしたり、声をかけてたりしている。
高等学校教員	C	私は、生徒に、元気にあいさつをしたり、声をかけてたりしている。

グラフ 19-2



児童生徒が「はい」及び「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

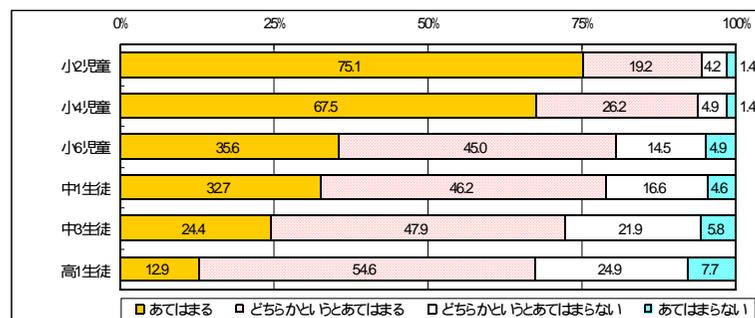
教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

2 「先生が私の気持ちを考えて話を聞いてくれること」に関する質問

先生に気持ちを考えて話を聞いてもらっているかどうか質問した。

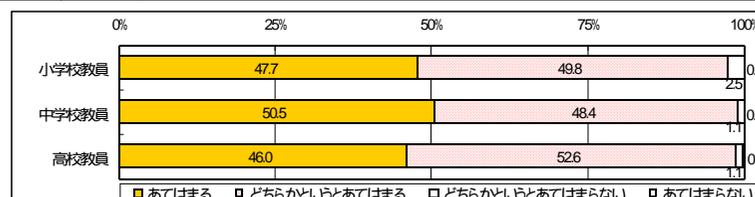
回答者	項目	
小2児童	C	先生は、わたしの気持ちをかんがえて、はなしをきいてくれる。
小4・6児童	C	先生は、わたしの気持ちを考えて話を聞いてくれる。
中1・3生徒	C	先生は、私の気持ちを考えて話を聞いてくれる。
高1生徒	C	先生は、私の気持ちを考えて話を聞いてくれる。

グラフ 20-1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、児童の気持ちを考えて話を聞くようにしている。
中学校教員	C	私は、生徒の気持ちを考えて話を聞くようにしている。
高等学校教員	C	私は、生徒の気持ちを考えて話を聞くようにしている。

グラフ 20-2



児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。

児童生徒が「はい」あるいは「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

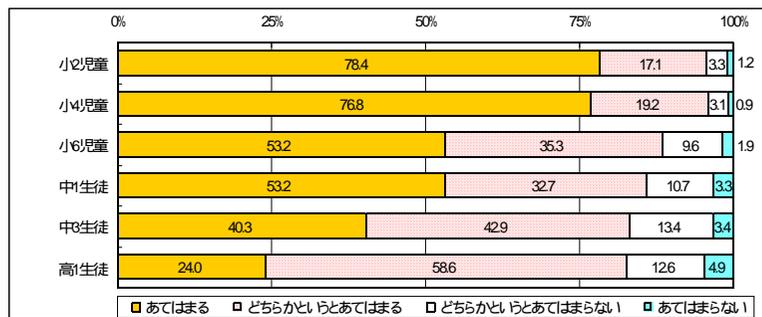
教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

### 3 「先生の話がよく分かること」に関する質問

先生の話がよく分かるかどうか質問した。教員には話を工夫しているかどうか質問した。

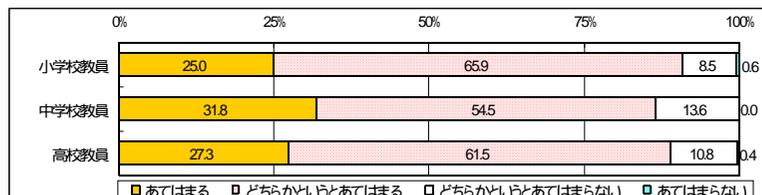
回答者	項目	
小2児童	C	せんせいの、あさのかいやかえりのかいのはなしは、よくわかる。
小4・6児童	C	先生の朝の会や帰りの会の話は、よくわかる。
中1・3生徒	C	先生の朝の会や帰りの会の話は、よくわかる。
高1生徒	C	先生のショートホームルームの時間の話は、よくわかる。

グラフ  
21 - 1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、朝の会や帰りの会で、説明の内容や話し方を工夫している。
中学校教員	C	私は、朝の会や帰りの会で、説明の内容や話し方を工夫している。
高等学校教員	C	私は、ショートホームルームで、説明の内容や話し方を工夫している。

グラフ  
21 - 2



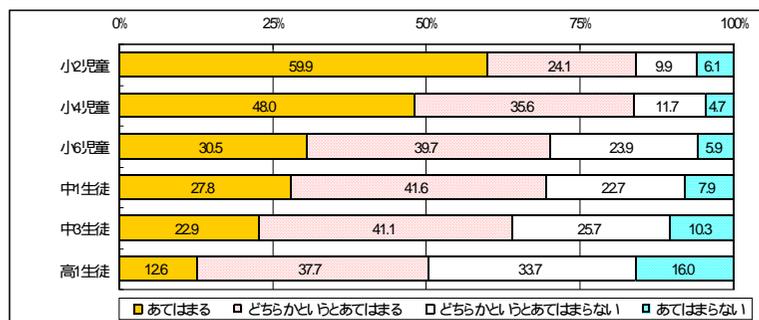
児童生徒が「はい」あるいは「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

### 4 「先生が協力することの大切さを話してくれること」に関する質問

先生が協力することの大切さを話しているかどうか質問した。

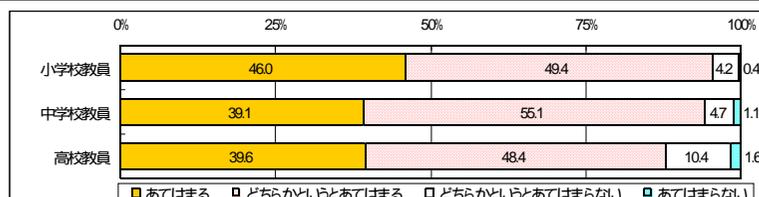
回答者	項目	
小2児童	C	先生は、そうじやきゅうしよなどのときに、みんなときょうりよくすることのたいせつさを、はなしてくれる。
小4・6児童	C	先生は、そうじやきゅうしよなどのときに、みんなときょうりよくすることの大切さを話してくれる。
中1・3生徒	C	先生は、清掃や給食などのときに、みんなと協力することの大切さを話してくれる。
高1生徒	C	先生は、清掃などのときに、みんなと協力することの大切さを話してくれる。

グラフ  
22 - 1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、清掃や給食などのときに、みんなと協力することの大切さを話している。
中学校教員	C	私は、清掃や給食などのときに、みんなと協力することの大切さを話している。
高等学校教員	C	私は、清掃などのときに、みんなと協力することの大切さを話している。

グラフ  
22 - 2



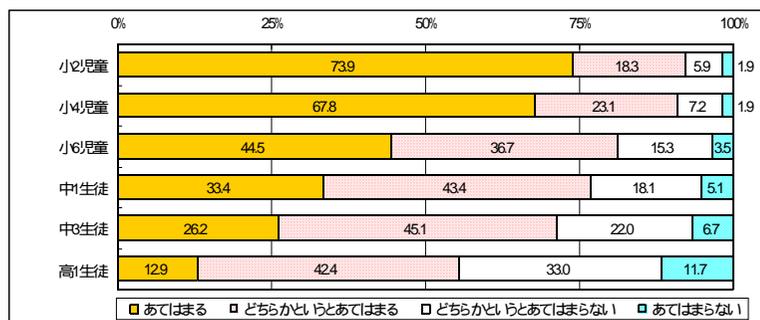
児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。  
児童生徒が「はい」および「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。  
教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

5 「先生が発言の大切さを話してくれること」に関する質問

先生が教科の学習で友達の発言を聞くことの大切さを話しているかどうか質問した。

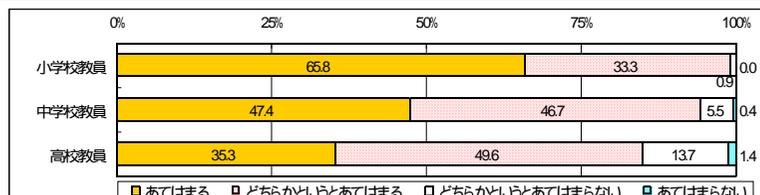
回答者	項目	
小2児童	C	先生は、じゅぎょうで、ともだちのはなしをよくきくように、いってくれる。
小4・6児童	C	先生は、教科の学習で、友だちの発言をしんげんに聞くことの大切さを話してくれる。
中1・3生徒	C	先生は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話してくれる。
高1生徒	C	先生は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話してくれる。

グラフ  
23 - 1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話している。
中学校教員	C	私は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話している。
高等学校教員	C	私は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞くことの大切さを話している。

グラフ  
23 - 2



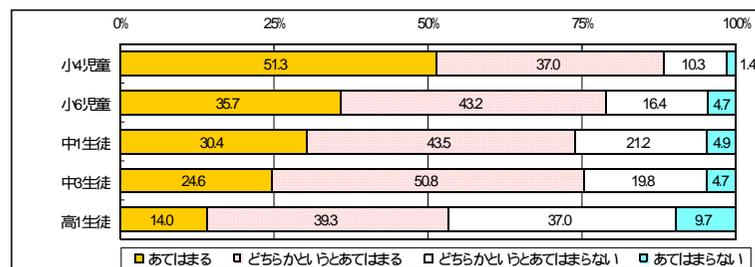
児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。  
児童生徒が「はい」および「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。  
教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

6 「先生が話し合い活動の機会を多くつくっていること」に関する質問

先生が教科の学習でグループ学習や話し合い活動の場面を多くつくっているか質問した。

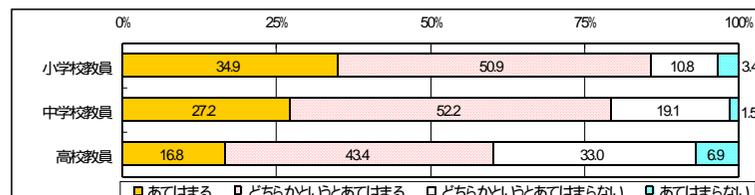
回答者	項目	
小4・6児童	C	先生は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動のばめんを多くつくっている。
中1・3生徒	C	先生は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を多くつくっている。
高1生徒	C	先生は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を多くつくっている。

グラフ  
24 - 1



回答者	項目	
小学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。
中学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。
高等学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。

グラフ  
24 - 2



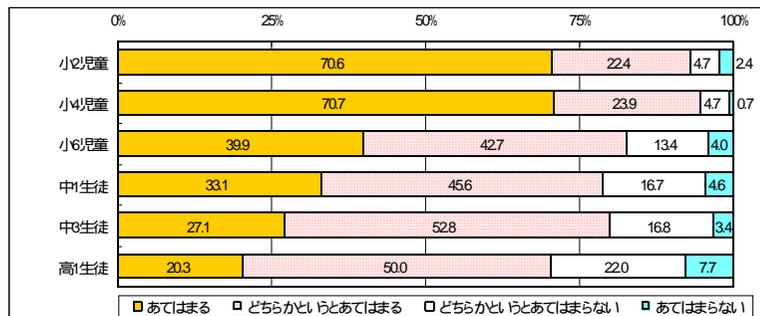
児童生徒が「はい」および「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

7 「先生が話し合いで協力できるように助けてくれること」に関する質問

先生が学級での話し合いで、みんなが協力できるように助けてくれるかどうか質問した。

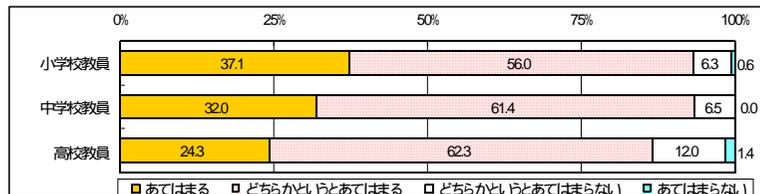
回答者	項目
小2児童	C 先生は、みんながなかよくなしあって、かつどうできるように、たすけてくれる。
小4・6児童	C 先生は、学級での話し合いで、みんながうまくきょうりょくできるように助けてくれる。
中1・3生徒	C 先生は、学級での話し合いで、みんながうまく協力できるように助けてくれる。
高1生徒	C 先生は、学級での話し合いで、みんながうまく協力できるように助けてくれる。

グラフ  
25 - 1



回答者	項目
小学校教員	C 私は、学級での話し合いでは、みんながうまく協力できるように児童に働きかけている。
中学校教員	C 私は、学級での話し合いでは、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。
高等学校教員	C 私は、学級での話し合いでは、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。

グラフ  
25 - 2



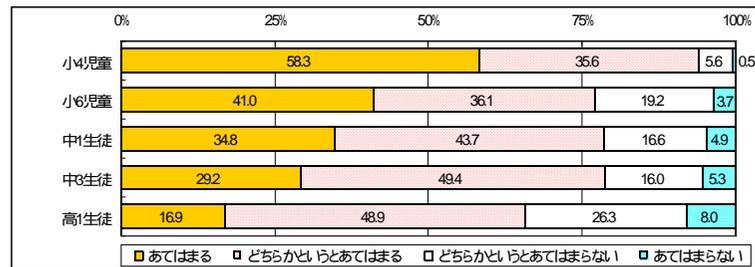
児童生徒が「はい」あるいは「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

次に、先生はクラス以外の委員会活動、生徒会活動、部活動などでみんなが協力できるように助けてくれるかどうか質問した。

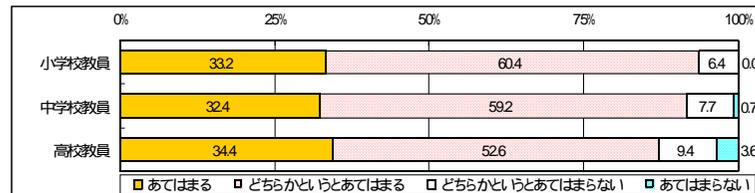
回答者	項目
小4・6児童	C 先生は、いいんかい活動やほかの学年の人の活動で、みんながうまくきょうりょくできるように助けてくれる。
中1・3生徒	C 先生は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように助けてくれる。
高1生徒	C 先生は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように助けてくれる。

グラフ  
25 - 3



回答者	項目
小学校教員	C 私は、委員会活動や総務部活動で、みんながうまく協力できるように児童に働きかけている。
中学校教員	C 私は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。
高等学校教員	C 私は、生徒会活動や部活動で、みんながうまく協力できるように生徒に働きかけている。

グラフ  
25 - 4



児童生徒が「はい」および「あてはまる」と回答した割合は、小4と小6、中3と高1の間に大きな差がみられる。

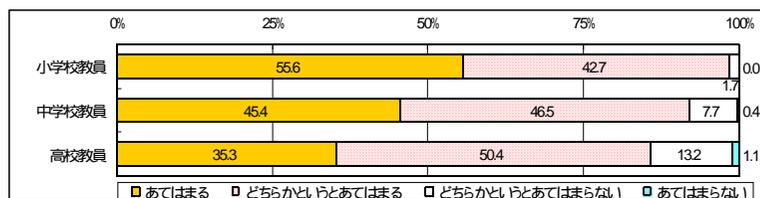
教員が「いいえ」と回答した割合は、児童生徒の回答の割合を下回る。

8 「学習での話し合いが内容理解や児童・生徒指導に役立つこと」に関する質問

学習指導での話し合い活動が、内容の理解や、児童・生徒指導に役立つと考えているかどうか、教員だけに質問した。

回答者	項目	
小学校教員	C	私は、教科の学習での話し合い活動は、内容の理解や児童指導のために、とても大切なことだと考えている。
中学校教員	C	私は、教科の学習での話し合い活動は、内容の理解や生徒指導のために、とても大切なことだと考えている。
高等学校教員	C	私は、教科の学習での話し合い活動は、内容の理解や生徒指導のために、とても大切なことだと考えている。

グラフ 26 - 1

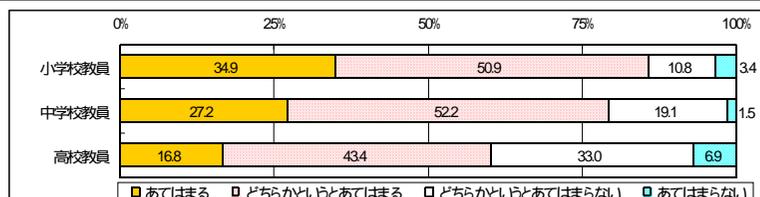


教員が「はい」と回答した割合は8割以上を占める。  
 教員が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。  
 教員が「はい」と回答した内、「あてはまる」と回答したのは、約5割である。

(参考)

回答者	項目	
小学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。
中学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。
高等学校教員	C	私は、教科の学習で、グループ学習や話し合い活動の機会を設けるよう努めている。

グラフ 24 - 2



グラフ26 - 1と24 - 2を比較すると、グラフ24 - 2で「あてはまる」と回答した教員の割合は、グラフ26 - 1で「あてはまる」と回答した教員の割合の約6割である。

領域D 児童生徒同士のやりとりに関する事

「児童生徒同士のやりとりに関する事」の質問は、次の表に示すとおりある。対象学年により言葉が若干異なるが、児童生徒に対する質問は中学1年のもの、教員に対する質問は中学校のものをそれぞれ示す。

対象	質問項目	
児童生徒		教科の学習で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。
		教科の学習以外で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。
		学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
		生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
		学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
教員		たてわりはんのかつどうでは、きょうりよくしないひとがいると、じょうきゅうせいがかちゅういしてくれる。
		生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
		学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
		生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
		学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
	生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。	

領域Dは、すべての質問について、4つの選択肢「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」で回答を求めた。「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を併せて「はい」、「どちらかというにあてはまらない」と「あてはまらない」を併せて「いいえ」と表記した。

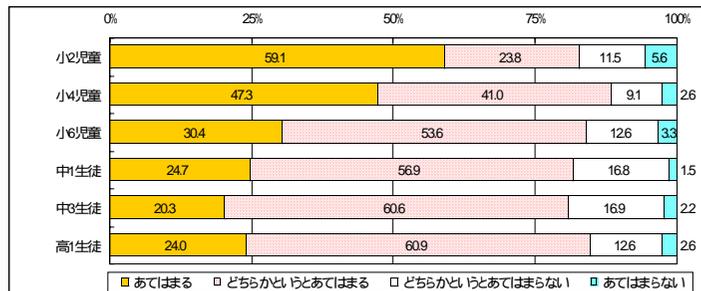
小2には「教科の学習」と「教科の学習以外」を区別した質問は省いた。質問項目の表及びグラフは、比較する目安とするために、「教科の学習」と「教科の学習以外」の両方の表とグラフに、同じ質問とその結果を入れてある。

1 「学級の友達が自分の発言を聞いてくれること」に関する質問

学級の友達が、教科の学習で、自分の発言を聞いてくれているかどうか質問した。

回答者	項目
小2児童	D ともだちは、わたしのはなしを、よくきいてくれる。
小4・6児童	D 学級の友だちは、教科の学習で、自分の発言をよく聞いてくれる。
中1・3生徒	D 教科の学習で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。
高1生徒	D 教科の学習で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。

グラフ 27-1

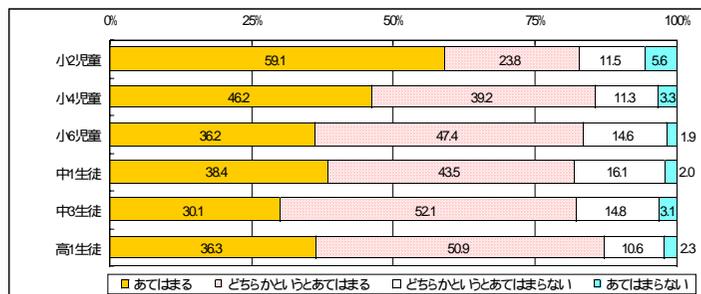


児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上っても変化しない。

次に学級の友達が、教科の学習以外で自分の発言を聞いてくれているかどうか質問した。

回答者	項目
小2児童	D ともだちは、わたしのはなしを、よくきいてくれる。
小4・6児童	D 教科の学習以外で、学級の友だちは、自分の発言をよく聞いてくれる。
中1・3生徒	D 教科の学習以外で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。
高1生徒	D 教科の学習以外で、学級の友達は、自分の発言をよく聞いてくれる。

グラフ 27-2



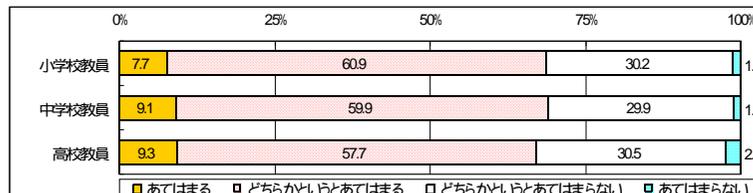
児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上っても変化しない。

教科の学習と教科の学習以外を比較すると、児童生徒が「あてはまる」と回答した割合は、教科の学習以外の方が学年が上がっても、減少幅が小さい。

(参考)

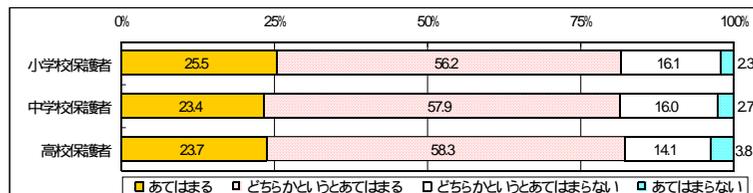
回答者	項目
小学校教員	A 児童は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。
中学校教員	A 生徒は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。
高等学校教員	A 生徒は、教科の学習で、友達の発言を真剣に聞いている。

グラフ 7-2



回答者	項目
保護者	A 子どもは、先生や友達に、話をよく聞いてもらっている。

グラフ 27-3



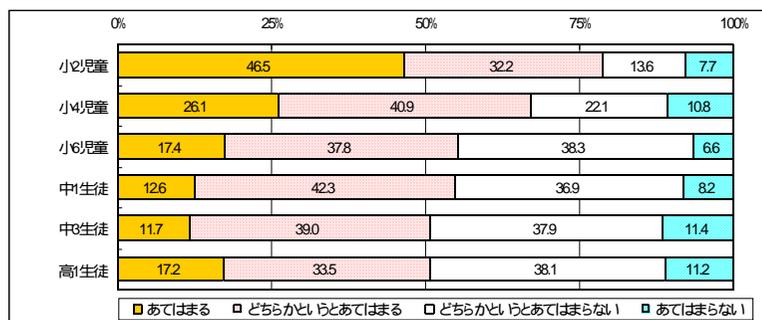
保護者が「はい」と回答した割合は、学年が上っても変化しない。

## 2 「問題点解決のために問題点を話題にすること」に関する質問

学級の問題点を解決するために、そのことをみんなで話題にできるかどうか質問した。

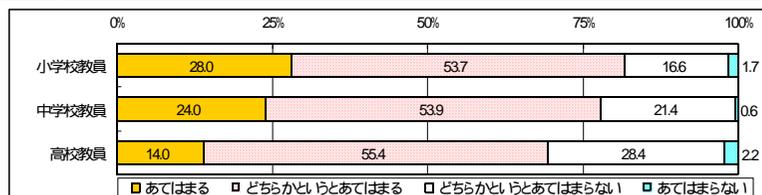
回答者	項目	
小2児童	D	がっきゅうでこまったことがあったとき、みんなで、はなし合うことができる。
小4・6児童	D	学級では、問題点をなくすため、そのことをみんなで話題にすることができる。
中1・3生徒	D	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
高1生徒	D	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。

グラフ  
28 - 1



回答者	項目	
小学校教員	D	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
中学校教員	D	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
高等学校教員	D	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。

グラフ  
28 - 2



児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少する。小6以降はわずかな変化である。

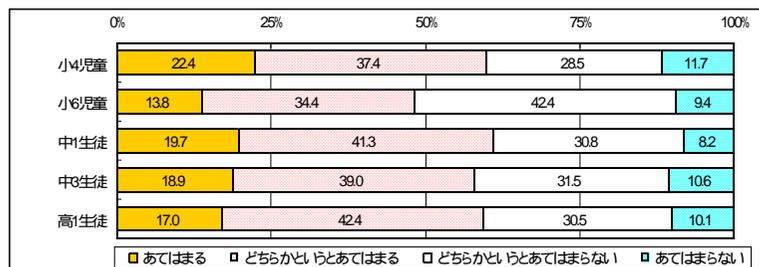
小6以降、児童生徒が「はい」あるいは「いいえ」と回答した割合は約5割である。また、「あてはまる」と「あてはまらない」と回答した割合、および「どちらかというにあてはまる」と「どちらかというにあてはまらない」と回答した割合が、それぞれ同じ程度の割合である。

児童生徒が「いいえ」と回答した割合は、教員の回答の割合よりも高い。

次に、生徒会や部活動等の問題点を解決するために、そのことをみんなで話題にできるかどうか質問した。

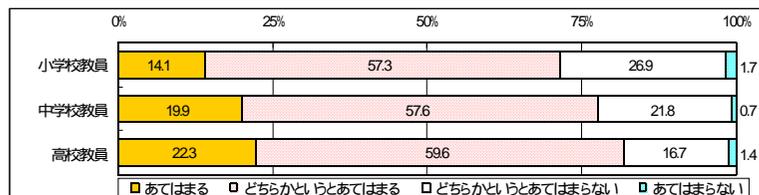
回答者	項目	
小4・6児童	D	ほかの学年の人との活動では、問題点をなくすため、そのことをみんなで話題にすることができる。
中1・3生徒	D	生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
高1生徒	D	生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。

グラフ  
28 - 3



回答者	項目	
小学校教員	D	委員会活動や縦割り班の活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
中学校教員	D	生徒会連合や部連合では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。
高等学校教員	D	生徒会連合や部連合では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。

グラフ  
28 - 4



児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上ってもあまり変化しない。

児童生徒が「いいえ」と回答した割合は、教員の回答の割合よりも高い。

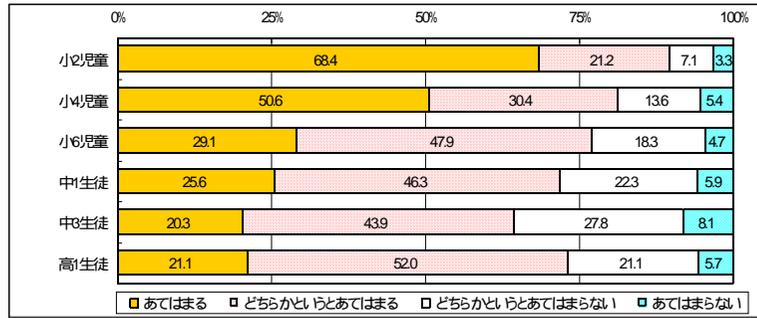
学級と生徒会や部活動を比較すると、児童生徒が「はい」と回答した割合は、中1以降、生徒会や部活動の方が高く、学年が上がるにつれて減少することもない。

3 「困っている人に声をかけること」に関する質問

学級で、困っている人に自然に声をかけあっているかどうか質問した。

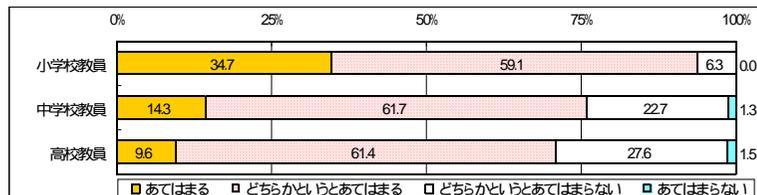
回答者	項目	
小2児童	D	こまっている人がいると、みんなが、こえをかけてあげる。
小4・6児童	D	学級では、こまっている人がいると、しげんに声をかけあっている。
中1・3生徒	D	学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
高1生徒	D	学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

グラフ  
29 - 1



回答者	項目	
小学校教員	D	学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
中学校教員	D	学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
高等学校教員	D	学級では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

グラフ  
29 - 2

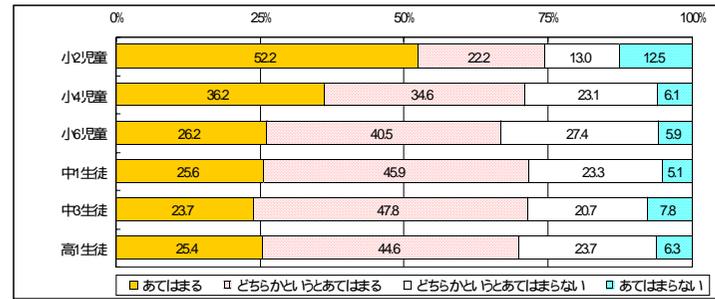


児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がるにつれて減少するが、高1で増加する。

次に、学級以外の生徒会や部活動等で、困っている人に自然に声をかけあっているかどうか質問した。また、縦割り班での上級生の役割を小2にのみ質問した。

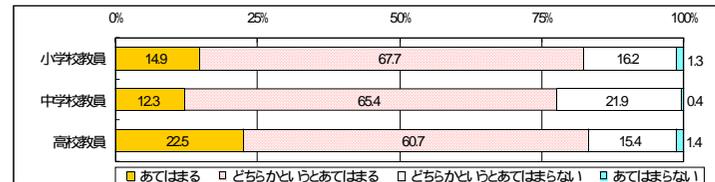
回答者	項目	
小2児童	D	たてわりはんのかつどうでは、こまっている人がいると、上きゅう生が、こえをかけてくれる。
小4・6児童	D	ほかの学年の人との活動では、こまっている人がいると、しげんに声をかけあっている。
中1・3生徒	D	生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
高1生徒	D	生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

グラフ  
29 - 3



回答者	項目	
小学校教員	D	委員会種別や縦割り班の活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
中学校教員	D	生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。
高等学校教員	D	生徒会活動や部活動では、困っている人がいると、自然に声をかけあっている。

グラフ  
29 - 4



回答者	項目	
小2児童	D	たてわりはんのかつどうでは、きょうりょくしない人がいると、上きゅう生が、ちゅうししてくる。

グラフ  
29 - 5



児童生徒が「はい」と回答した割合は、学年が上がってもあまり変化しない。教員が「はい」と回答した割合は、学年が上がってもあまり変化しない。

## 領域E 学校や家庭での話し合いに関すること

「学校や家庭での話し合いに関すること」の質問は、次の表に示すとおりである。対象学年により言葉が若干異なるが、児童生徒に対する質問は中学1年のものを示す。

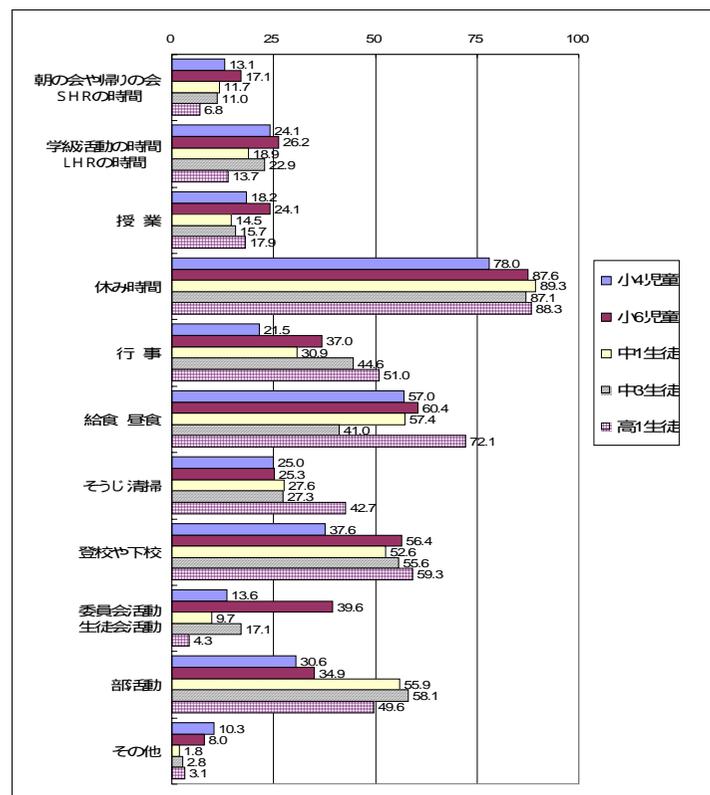
対象	質問項目
児童生徒	学校で友だちと、うまく対話や話し合いができるのはどんなときですか。あてはまると思うものをすべて選んで、数字に をつけてください。
	学校や家庭で話をするとき、自分や相手がいやな思いをしないようにするために、どんなことに気をつけていますか。
教員	今まで以上に、秩序ある話し合いや、なごやかな対話が児童間で行えるようにするには、どの場面の指導をより一層重視するべきだと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。
	学校や家庭で生徒が話をするときに、生徒や相手がいやな思いをしないようにするためには、どんなことを指導すべきだと思いますか。
保護者	お子様が人と話をするときに、相手とお子様がいやな思いをしないようにするためには、どんなことに気をつけるよう、話をしていますか。

## 1 「学校で友達とうまく対話や話し合いができる場」に関する質問

学校で友達とうまく対話や話し合いができる場面を複数回答で質問した。

回答者	項目
小4・6年生	E 学校で友だちと、うまく対話や話し合いができるのはどんなときですか。あてはまると思うものをすべて選んで、数字に をつけてください。
中1・3年生	E 学校で友達と、うまく対話や話し合いができるのはどんなときですか。あてはまると思うものをすべて選んで、数字に をつけてください。
高1年生	E 学校で友達と、うまく対話や話し合いができるのはどんなときですか。あてはまると思うものをすべて選んで、数字に をつけてください。

グラフ  
30 - 1



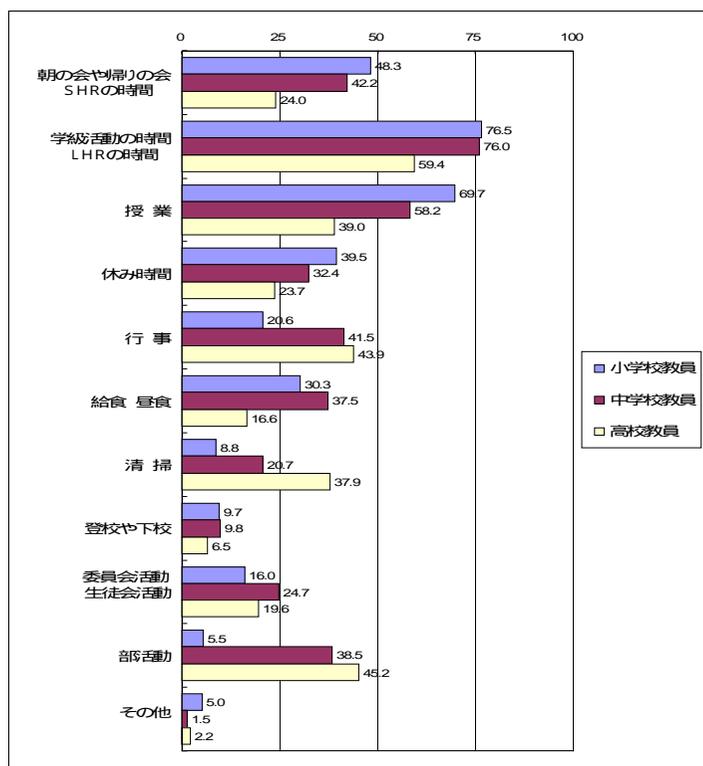
領域Eは、複数回答の質問と、記述による回答の質問がある。記述による回答は、分類分けをしてグラフで示し、分類した項目ごとに回答例を示した。

どの学年も、休み時間、昼食、登下校と回答した割合が高く、授業や学級活動の時間の割合は低い。

次に教員に、学校で児童生徒がよい対話や話し合いをすめために、どの場面の指導をより重視すべきか、複数回答で聞いた。

回答者	項目	
小学校教員	E	今まで以上に、秩序ある話し合いや、なごやかな対話が児童間でできるようにするには、どの場面の指導をより一層重視すべきだと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。
中学校教員	E	今まで以上に、秩序ある話し合いや、なごやかな対話が生徒間でできるようにするには、どの場面の指導をより一層重視すべきだと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。
高等学校教員	E	今まで以上に、秩序ある話し合いや、なごやかな対話が生徒間でできるようにするには、どの場面の指導をより一層重視すべきだと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

グラフ  
30 - 2



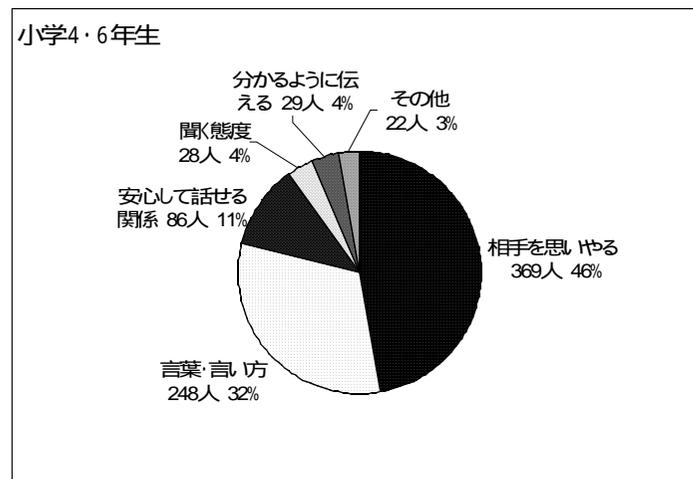
小・中学校の教員は、学級活動の時間、授業、朝の会や帰りの会と回答した割合が高い。  
高等学校の教員は、LHRの時間、部活動、行事と回答した割合が高い。

2 「相手がいやな思いをしないように話をするために必要なこと」に関する質問

小学生に、自分や相手がいやな思いをしないで話をするために、どんなことに気を付けているか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目	
小4・6年生	E	学校や家庭で話をするとき、自分や相手がいやな思いをしないようにするために、どんなことに気を付けていますか。

グラフ  
31 - 1



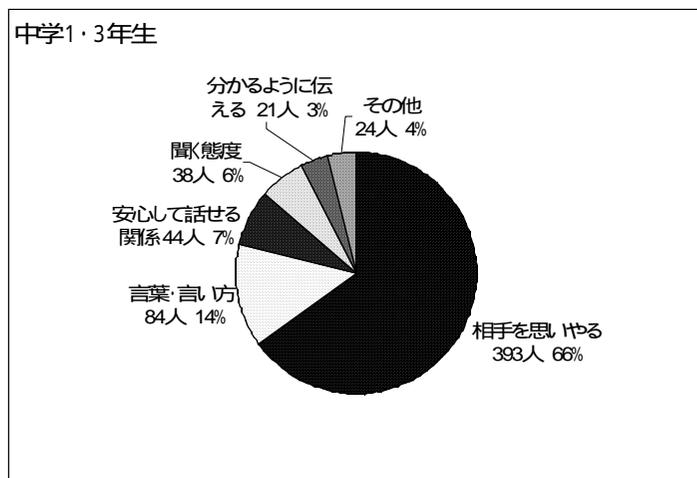
主な回答

- 思いやり
- ・自分にいわれてやなことをいわない。
  - ・そのことを、話す前に話してもだいじょうぶか考えてから話す。
  - ・なるべく、友達がきづつかないようにしている。
  - ・学校では、人の体のことを言わないようにしている。
- 言葉・言い方
- ・わるいことばをつかわない。
  - ・わるくちをいわない。
- 安心して話せる関係
- ・よびつけで、言わない。けんかは、しない。なかよくする。
  - ・強い口調でどならない。
- 聞く態度
- ・友だちの話をよくきく。
  - ・自分の発言だけではなく、人の意見も聞く。
- 分かるように伝える
- ・長い話しをしないようにしている。あと、相手がわかりやすく話している。
  - ・大きなこえではなしをしている。

中学生に、自分や相手がいやな思いをしないで話をするために、どんなことに気をつけているか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
中1・3年生	E 学校や家庭で話をするとき、自分や相手がいやな思いをしないようにするために、どんなことに気をつけていますか。

グラフ  
31 - 2 中学1・3年生



主な回答

思いやり

- ・自分が言われたら嫌なことは言わない。嫌な思いをさせてしまうような行動はしない。
- ・相手がいやな思いをしそうなことは、言わない。もし相手が嫌だと思ったらあやまる。
- ・あいての気持ちをよく考えて話をしている。
- ・自分が発言が相手にどういう影きょうを与えるかを考える。

言葉・言い方

- ・自分の気持ちは素直に言うけど相手をきずつけないように言葉を選んで言っている。
- ・言葉づかいを気をつけている。きちんと反応してあげるようにしている。

安心して話せる関係

- ・その人の話に合わせて、いつも笑顔で接するようにしている。
- ・自分の思ったことだけを押しつけないようにする。

聞く態度

- ・きいている人の意見が自分とちがうとき、全否定しないで、よくきく。
- ・相手の意見とかもちゃんと聞いて、相手の事も考えて話す。

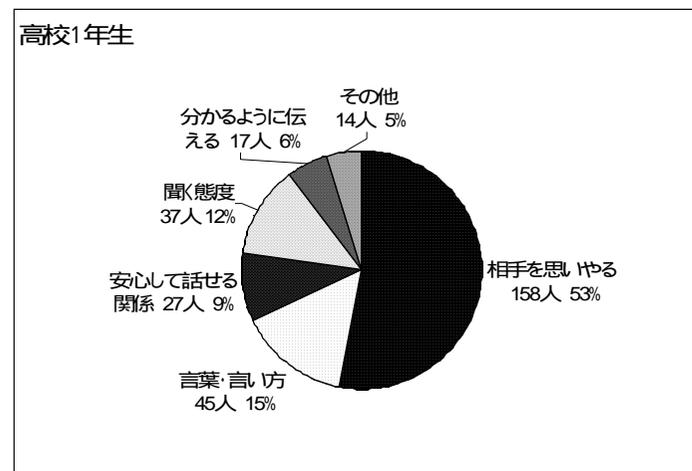
分かるように伝える

- ・聞きやすいようにゆっくりしゃべったり、内容をまとめて話したり、相手の意見を聞いたりして話している。

高校生に、自分や相手がいやな思いをしないで話をするために、どんなことに気をつけているか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
高1年生	E 学校や家庭で話をするとき、自分や相手がいやな思いをしないようにするために、どんなことに気をつけていますか。

グラフ  
31 - 3 高校1年生



主な回答

思いやり

- ・相手の立場になって考える、相手がどう思っているか予想しながら、傷付かない言葉（や話題）を選んで話をする。
- ・自分が言った言葉に対して相手がどう思うが考えて、相手がいやな思いをしないように気をつけている。

言葉・言い方

- ・嫌な言い方をしない。思った事をそのまま言うのではなく、良く考えてから話す。偏見や差別がないように言葉の選び方に気をつけている。

安心して話せる関係

- ・相手の考えていることを思いながら話すようにしている。なるべくおもしろく、楽しく話すようにしている。

聞く態度

- ・まずは相手の意見を聞き、その上で自分の意見を話すようにしている。決して自分一人だけで一方的に話さないようにしている。
- ・相手からの意見に対して、すぐ反論に転ずるのではなく、多少自分の方に納得がいかないことがあっても、まずは相手の話をよく聞き受け入れるようにしている。
- ・なるべく自分だけ話せばなく相手の話もきちんと聞くように気をつけている。

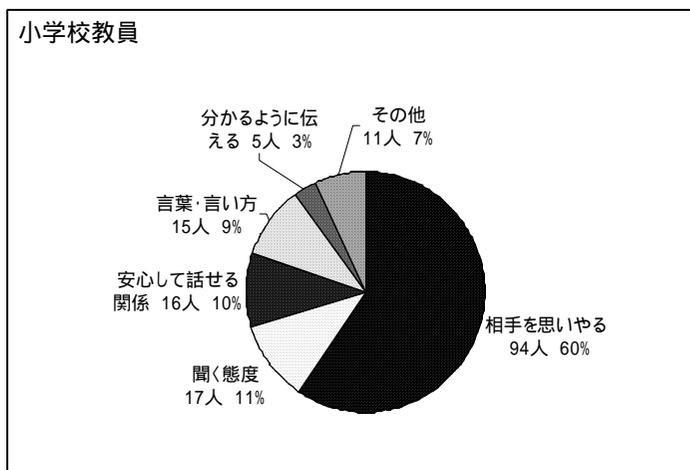
分かるように伝える

- ・言いたいことを、考えてから、判断して言う。相手の性格を知る。

小学校教員に、児童がいやな思いをしないで話をするために、どんなことを指導すべきか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
小学校教員	E 学校や家庭で児童が話をするときに、児童や相手がいやな思いをしないようにするためには、どんなことを指導すべきだと思いますか。

グラフ  
31-4



主な回答

相手思いやる

- ・何かトラブルがあった時に、どのような対応や話し方がよかったのか話し合う。その際相手の気持ちになって考えられるよう、立場をおきかえて考えさせてみる。
- ・相手の気持ちを考える機会を多くもたせる。感じる心を育てるには、考える、想像する力が必要。静かに物事を深く考えるという時間を多く持つことだと思います。
- ・相手の立場にたった思いやりのある言動や正直で平等な立場にたった行動の指導。

聞く態度

- ・「本気で聞いているよ」ということが相手に伝わるように本気で話を聞き、きちんと聞いた後でそれに対する自分の考えを伝えるようにする。
- ・まず、相手の話に耳を傾けることを、徹底すべきだと思います。自分の主張はするが、人の話を聞くのは苦手な子が多いです。

安心して話せる関係

- ・どんなことでも話し合えるよう、1日の出来事を、毎日話をして、いいこといやなことの違いなく話せるムード作りをする。話す習慣を育成する。
- ・ソーシャルスキルなどを通じた、人間関係育成が必要だと思う。

言葉・言い方

- ・相手を傷つけない話し方の指導。ムカツク、ウザイ、キモイ等の言葉を使わせない。
- ・ていねいな言葉づかいの指導を日頃から心がける。また教員自ら、感情的にならずに、冷静な態度で児童に接するようにする。

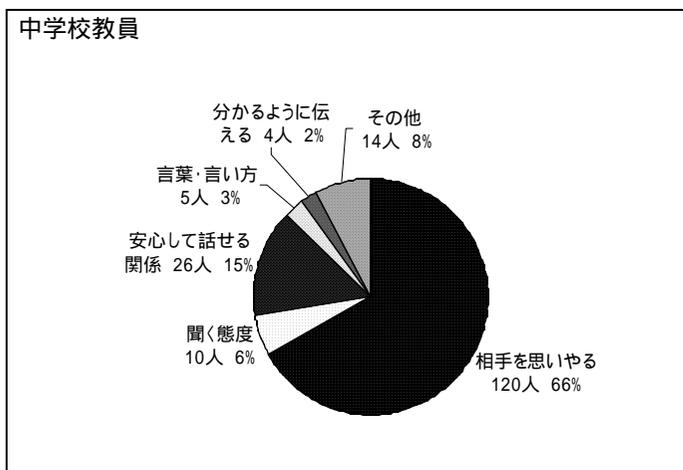
分かるように伝える

- ・事実を正確に伝えられるよう 話す力をつける。・正しい判断力を育てる。

中学校教員に、生徒がいやな思いをしないで話をするために、どんなことを指導すべきか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
中学校教員	E 学校や家庭で生徒が話をするときに、生徒や相手がいやな思いをしないようにするためには、どんなことを指導すべきだと思いますか。

グラフ  
31-5



主な回答

相手思いやる

- ・自分の話した言葉、態度が周囲の人にどんな影響を与えるのかを考えさせる。またその言動をしていかどうかを判断する能力を養う指導をする。
- ・相手の気持ちを考える指導（気持ちを考える、気持ちをつかむ、どう行動すればコミュニケーションがうまくいくのかを具体的に考えさせ、時にはロールプレイのように体験させることも 必要かなと思います。）
- ・自分本位で話をせずに、聞き手の気持ちも考えながら話すことが大切だということを教える必要がある。

聞く態度

- ・話をよく真剣に聞く雰囲気の日頃から努力して作っていくこと。
- ・相手の話を最後まで聞いてから自分の話をする。アサーショントレーニングをする。

安心して話せる関係

- ・1、自分が大切にされていることを実感させること。2、自分の気持ちを上手にコントロールすること。3、受容的な雰囲気を集団内に生み出すこと。
- ・何か悩み事がありそうであれば、生徒や相手の好きなことや、がんばっていることから、核心にふれていけばと思います。

言葉・言い方

- ・自分の思いをなるべく多くの言葉で表現すること。
- ・敬語の使い方。コミュニケーションの取り方。論理的な話し方。

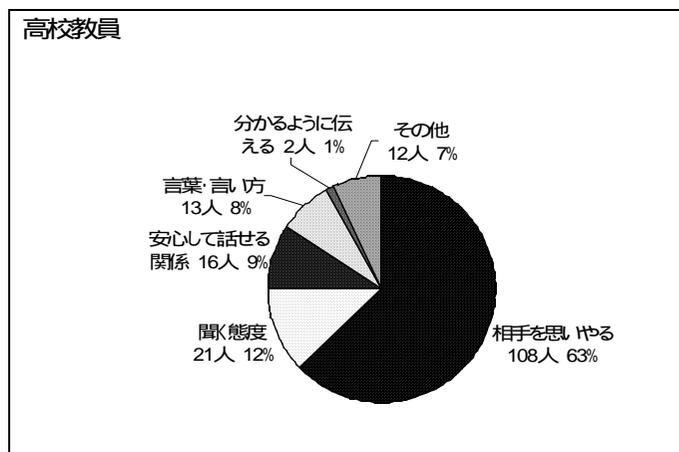
分かるように伝える

- ・話をするときに「事実」と「考えた事・想像」の区別ができるトレーニング。

高校教員に、生徒がいやな思いをしないで話をするために、どんなことを指導すべきか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
高校教員	E 学校や家庭で生徒が話をするときに、生徒や相手がいやな思いをしないようにするためには、どんなことを指導すべきだと思いますか。

グラフ  
31 - 6



主な回答

相手思いやる

- ・相手の気持ちや立場を考えて、行動し発言することや、モラルを守ることの大切さを踏まえて、コミュニケーションをはかることなどを指導する。
- ・相手の立場になって考えさせる・これまでの経験の中でいやな思いをした場面をふり返らせて、実感を持たせる。
- ・自己中心的な考え方の生徒が多い。機会を捉え、相手の立場になって考えたり、自分の意見とは違う意見をきいたりさせたい。

聞く態度

- ・相手の話をじっくり聞く習慣を身につけさせる。・家庭での会話を見直してもらう。
- ・相手が話したことに対して、積極的に聞く姿勢を見せる。笑顔で、あいづちを打ち、身をのり出してみたりするなど。

安心して話せる関係

- ・LHRなどで、ロールプレイなどを通してコミュニケーションのしかたを生徒に学ばせる機会があるといいと思います。相手の身になって考え、発言したり行動したりすることの大切さを指導すべきだと思います。

- ・思いやり、忍耐、寛容などに関する話題を投げかけ考える機会を持ってもらう。

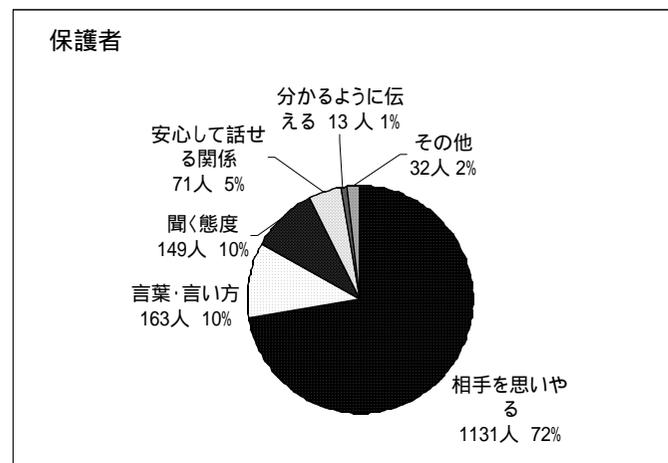
言葉・言い方

- ・話すときの態度や言葉づかい。タイミングのとらえ方。場の設定、話す内容の吟味と確認。
- ・1. 身体的特長を侮辱したようないい方をしない。2. どんなことでも一度は受け入れるような言い方を心掛ける。

保護者に、子どもがいやな思いをしないで話をするために、どんなことに気をつけるよう話をしているか質問した。回答は記述で求めた。

回答者	項目
保護者	B お子様が人と話をするときに、相手とお子様がいやな思いをしないようにするためには、どんなことに気をつけるよう、話をしていますか。

グラフ  
31 - 7



主な回答

おもいやり

- ・相手に言葉を発する時、一呼吸おいて、「このことは、言ったら相手は嫌な思いをしないかな」と、ちょっとでも考えてみるよう、話しています。
- ・もし自分が相手から言われたらいやな思いをするような言葉は、相手も言われたらきついやな思いをするから、言ってはいけないというようなことを話しています。

言葉・言い方

- ・思ったことをストレートに言うのではなく、相手がいやな思いをしない言い方を考えてから言うよう話している。
- ・言葉づかいや、あいさつに気をつける。(乱暴な言葉を使わない)。何かしてもらった時は、「ありがとう」を忘れない。

聞く態度

- ・相手が気にすることや嫌がることは、けっして言ってはいけない。人の話はよく聞くこと。
- ・相手が話している時は目を見て真剣に話を聞くように心がけるよう話しています。言われて嬉しくない事は言わないようにと伝えています
- ・目を見て話す。真剣に何を言いたいのかをしっかりと聞くようにするんだよと話しています。言葉を選んで、優しくわかりやすく話すように...と話をしています。

安心して話せる関係

- ・リラックスして話してくれる雰囲気をつくるように心がけている。(お風呂に入っている時や、夜寝る時に本を読んだりしながら )また子供と二人で車にのっている時は、子供の本根がみえるので多くもつようにしている。